

Ⅲ ソーシャル・キャピタルの醸成に関わるもの

ソーシャル・キャピタルの要素に関わる問いについて、醸成に影響を与えている要因がないかを分析した。

1 年代別との相関性

パットナムによるとネットワークでは家族や親族を超えた幅広い「弱い紐帯」を重視し、その中でも特に「直接顔を合わせるネットワーク」が核であるとしている。信頼では、「知っている人に対する厚い信頼」と「知らない人に対する薄い信頼」があるが、「薄い信頼」の方がより広い協調行動を促進することにつながり、ソーシャル・キャピタルの形成に役立つとしている。互酬性（相互依存的な互いの利益交換）の規範意識では、同等価値のものを同時に与え合う「均衡の取れた互酬性」と、現時点では不均衡でも将来均衡がとれるとの期待を元にした交換の持続的関係である「一般化された互酬性」があり、一般化された互酬性は短期的には相手の利益になることが多いが、長期的には当事者全員の効用を高めることにつながるとしている。

これらのことを踏まえ、本調査での以下の問いを取り上げて、相関性をみていくこととした。なお、互酬性の規範意識については、以下、「社会参加」と表現する。

- ・ネットワーク…問 1(2)地域の人とのつながり、問 1(3)地域の人との面識・交流、問 1(4)友人・知人との付き合い・交流
- ・信頼…問 2(1)地域の人への信頼、問 2(2)一般的な人への信頼
- ・社会参加（互酬性の規範意識）
 - …問 3(1)a 地縁的な活動への参加、b グループ・サークル活動への参加、c ボランティア・NPO・市民活動への参加

(1) 相関表から

相関表 I（年齢）

【表 5 0】

	問 1(2) 地域の人と の付き合い	問 1(3) 地域の人と の面識・交 流	問 1(4) 友人・知人 との付き合い・交流	問 2(1) 地域の人 への信頼	問 2(2) 一般的な 人への信 頼	問 3(1)a 地縁的な 活動	問 3(1)b グループ やサーク ル活動	問 3(1)c ボランティ ア・NPO・ 市民活動
問 5(2) Pearson の相関係数	.356**	.257**	-.105**	.131**	.171**	.372**	.356**	.139**
年代 有意確率(両側)	.000	.000	.002	.000	.000	.000	.000	.000
(年齢) 度数	851	851	854	846	845	839	840	832

**、相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。

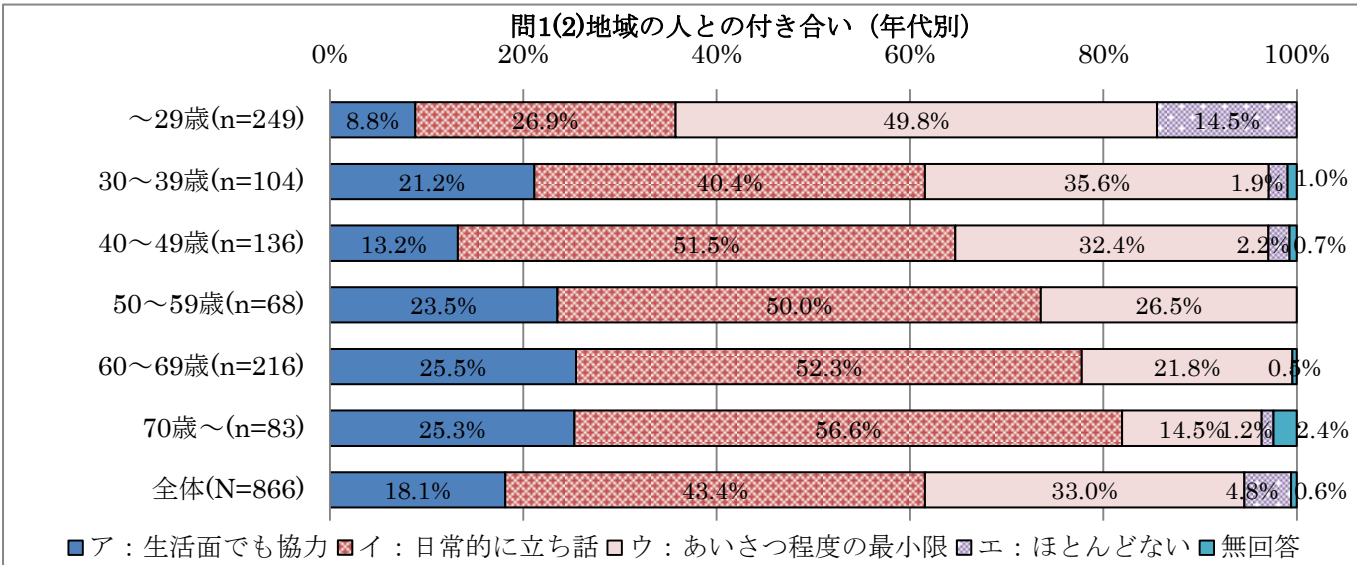
Pearson の相関係数から見ると、問 3(1)a との相関性が認められ、問 1(2)、問 3(1)b にも相関性がうかがえる。また問 1(3)にも相関性があるものと思われる。

(2) クロス集計から

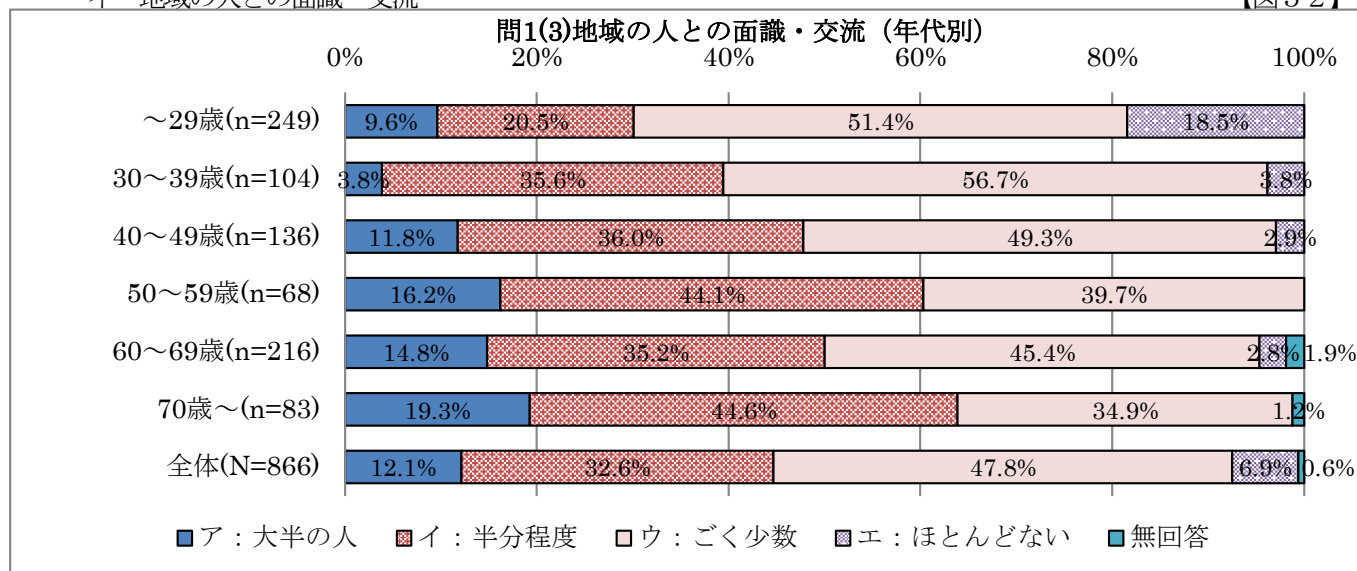
① ネットワーク

ア 地域の人との付き合い

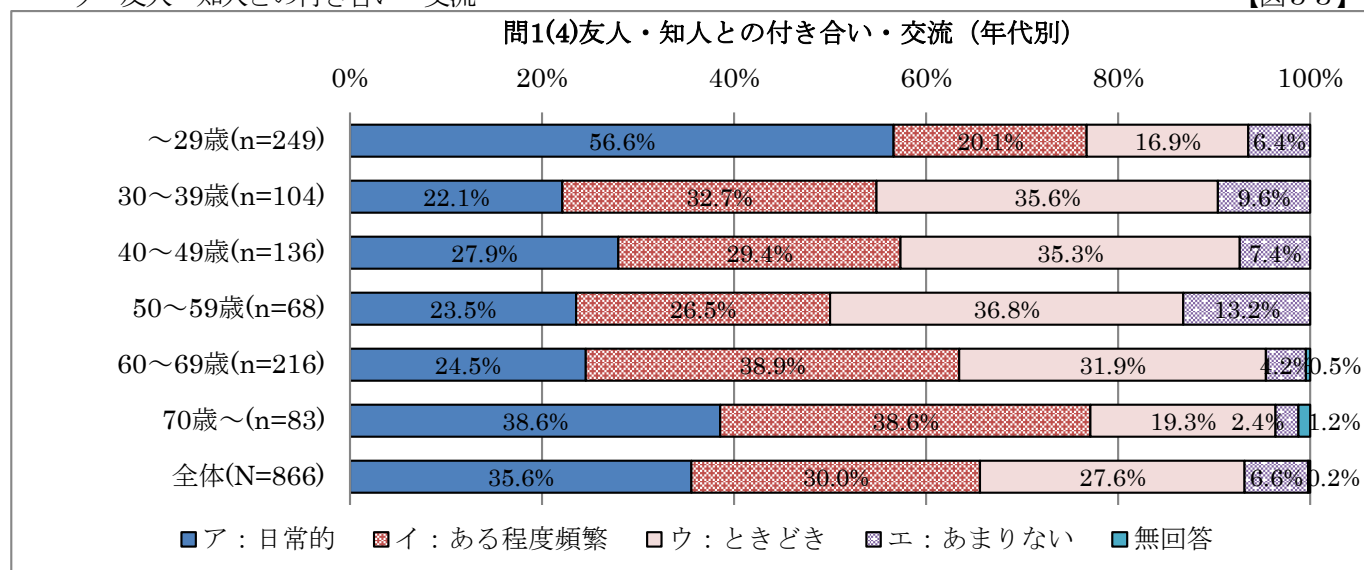
【図 5 1】



付き合いが深いと思われる「生活面でも協力」「日常的に立ち話」と回答した人の割合の合計では、年代が高くなるにつれて割合も高くなり、70歳以上が81.9%に上る。「ほとんどない」の割合は、29歳以下が最も高く、14.5%であった。



「大半の人」と「半分程度」と回答した人の割合の合計では、70歳以上が63.9%でもっとも高く、50～59歳が60.3%で続く。60～69歳が50.0%で前後の年代よりも落ち込むが、全体的には年代が高くなるにつれて割合も高くなる傾向が見られる。「ほとんどない」は29歳以下の18.5%が他の年代よりも高い割合である。

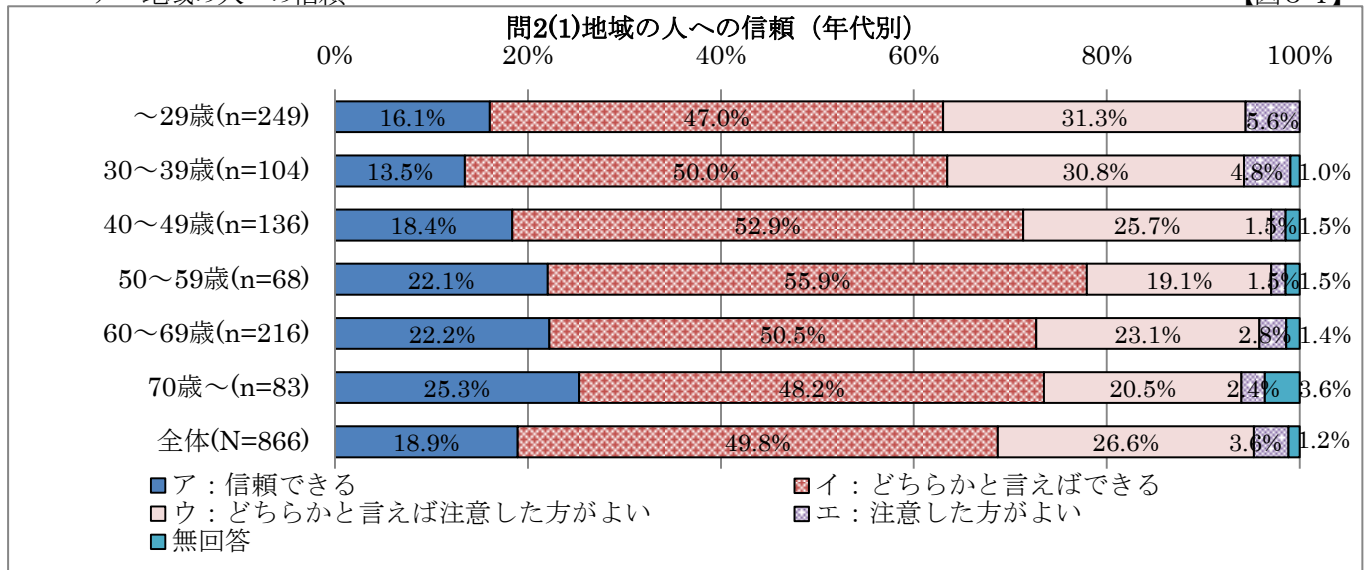


「日常的」または「ある程度頻繁」に友人・知人との付き合い・交流があると回答した人の割合が最も高かったのは、70歳以上の77.2%である。29歳以下の76.7%が続く。「あまりない」は50～59歳が13.2%で最も高い。

② 信頼

ア 地域の人への信頼

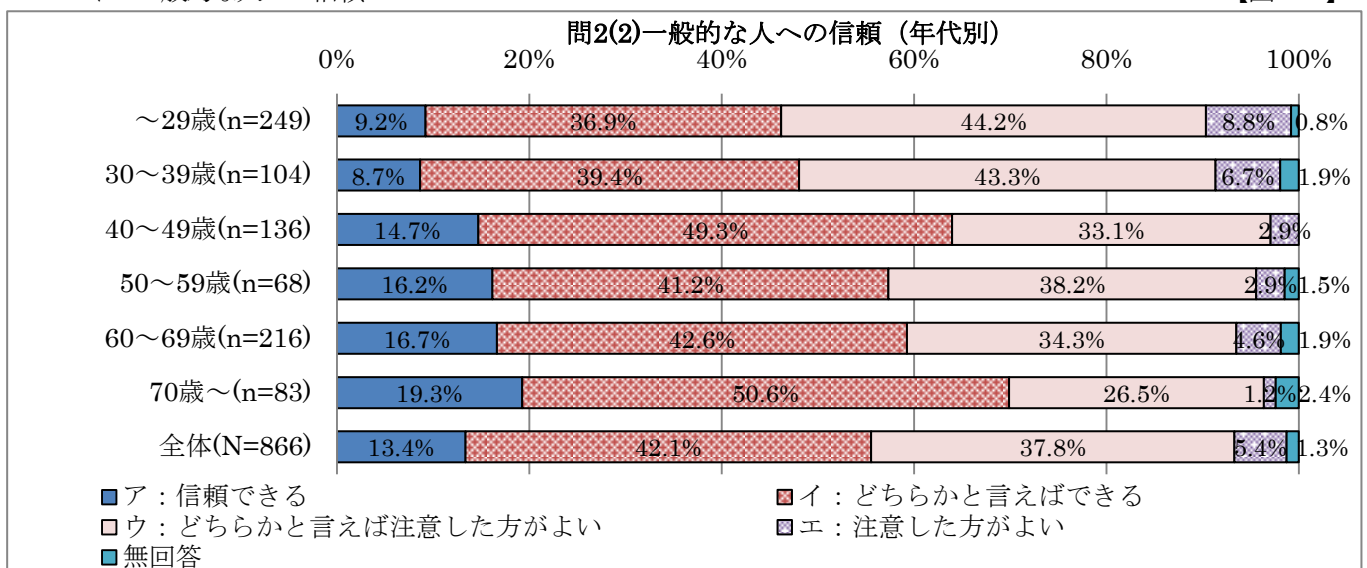
【図 5 4】



「信頼できる」と回答した人の割合では、70歳以上が25.3%で最も高い。「信頼できる」「どちらかと言えばできる」の割合の合計では、50～59歳が78.0%で最も高い。「信頼できる」の29歳以下、「信頼できる」「どちらかと言えばできる」の割合の合計での50～59歳等、あてはまらない年代も見られるが、全体的には年代が高くなるにつれて割合も高くなる傾向が見られる。

イ 一般的な人への信頼

【図 5 5】

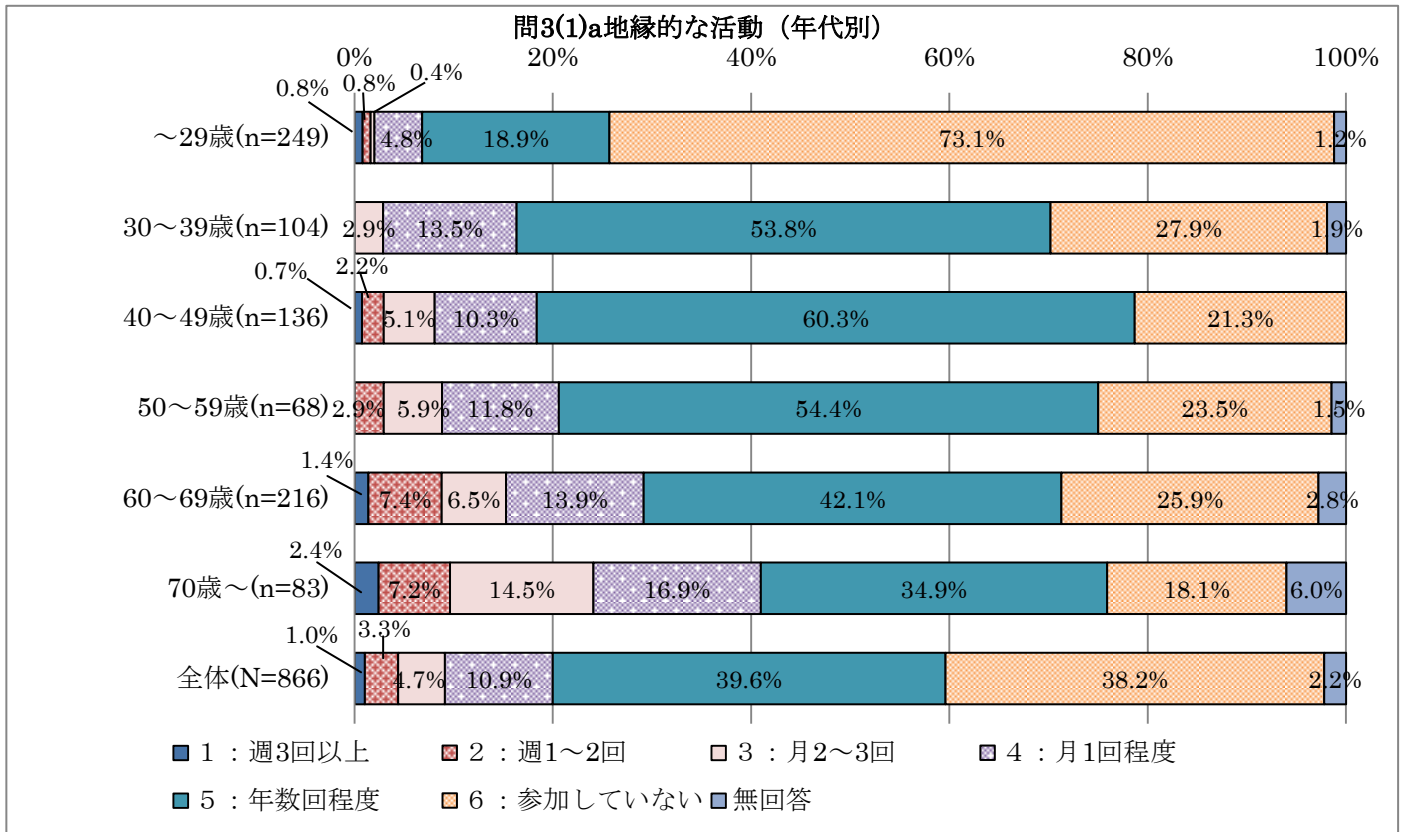


「信頼できる」と回答した人の割合では、70歳以上が19.3%で最も高い。「信頼できる」「どちらかと言えばできる」の割合の合計では、70歳以上69.9%が最も高く、40～49歳64.0%が続く。「信頼できる」の29歳以下、「信頼できる」「どちらかと言えばできる」の割合の合計での40～49歳等、あてはまらない年代も見られるが、全体的には年代が高くなるにつれて割合も高くなる傾向が見られる。

③ 社会参加

ア 地縁的な活動

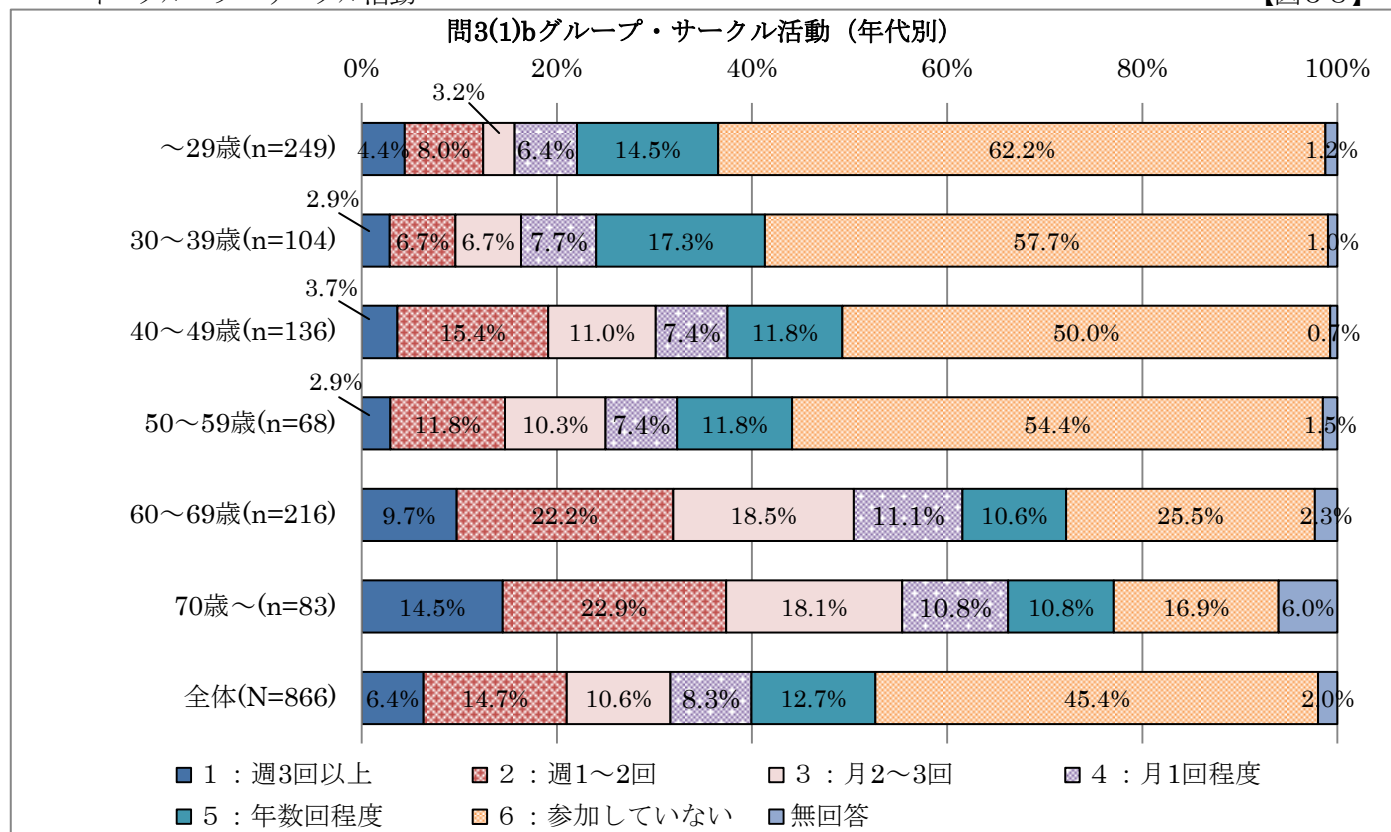
【図56】



【表57】

	週3回以上	週1～2回	月2～3回	月1回程度	年数回程度	参加していない	無回答
～29歳(n=249)	0.8%	0.8%	0.4%	4.8%	18.9%	73.1%	1.2%
30～39歳(n=104)	0.0%	0.0%	2.9%	13.5%	53.8%	27.9%	1.9%
40～49歳(n=136)	0.7%	2.2%	5.1%	10.3%	60.3%	21.3%	0.0%
50～59歳(n=68)	0.0%	2.9%	5.9%	11.8%	54.4%	23.5%	1.5%
60～69歳(n=216)	1.4%	7.4%	6.5%	13.9%	42.1%	25.9%	2.8%
70歳～(n=83)	2.4%	7.2%	14.5%	16.9%	34.9%	18.1%	6.0%
全体(N=866)	1.0%	3.3%	4.7%	10.9%	39.6%	38.2%	2.2%

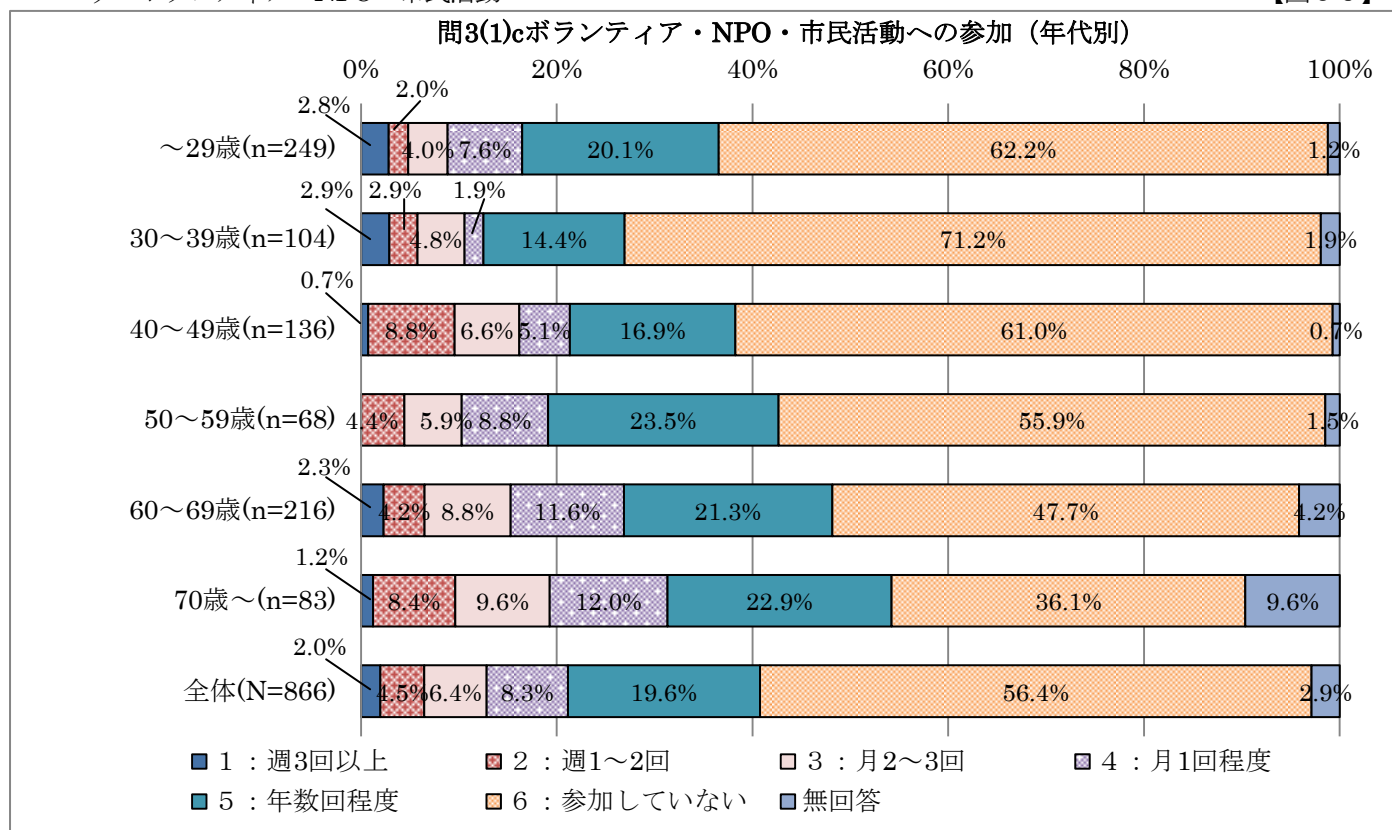
地縁的な活動に参加していると回答した人の割合（1：週3回以上～5：年数回程度の合計）を見ると、40～49歳が78.0%で最も高い。月1回以上（1：週3回以上～4：月1回程度）参加していると回答している割合は、年代が高くなるにつれて割合も高くなり、70歳以上は41.0%である。



【表59】

	週3回以上	週1～2回	月2～3回	月1回程度	年数回程度	参加していない	無回答
～29歳(n=249)	4.4%	8.0%	3.2%	6.4%	14.5%	62.2%	1.2%
30～39歳(n=104)	2.9%	6.7%	6.7%	7.7%	17.3%	57.7%	1.0%
40～49歳(n=136)	3.7%	15.4%	11.0%	7.4%	11.8%	50.0%	0.7%
50～59歳(n=68)	2.9%	11.8%	10.3%	7.4%	11.8%	54.4%	1.5%
60～69歳(n=216)	9.7%	22.2%	18.5%	11.1%	10.6%	25.5%	2.3%
70歳～(n=83)	14.5%	22.9%	18.1%	10.8%	10.8%	16.9%	6.0%
全体(N=866)	6.4%	14.7%	10.6%	8.3%	12.7%	45.4%	2.0%

グループ・サークル活動に参加していると回答した人の割合（1：週3回以上～5：年数回程度の合計）は、50～59歳が前後の年代よりも若干落ち込むが、全体的には年代が高くなるにつれて割合も高くなり、70歳以上が77.1%で最も高くなる。



【表61】

	週3回以上	週1～2回	月2～3回	月1回程度	年数回程度	参加していない	無回答
～29歳(n=249)	2.8%	2.0%	4.0%	7.6%	20.1%	62.2%	1.2%
30～39歳(n=104)	2.9%	2.9%	4.8%	1.9%	14.4%	71.2%	1.9%
40～49歳(n=136)	0.7%	8.8%	6.6%	5.1%	16.9%	61.0%	0.7%
50～59歳(n=68)	0.0%	4.4%	5.9%	8.8%	23.5%	55.9%	1.5%
60～69歳(n=216)	2.3%	4.2%	8.8%	11.6%	21.3%	47.7%	4.2%
70歳～(n=83)	1.2%	8.4%	9.6%	12.0%	22.9%	36.1%	9.6%
全体(N=866)	2.0%	4.5%	6.4%	8.3%	19.6%	56.4%	2.9%

ボランティア・NPO・市民活動に参加している（1：週3回以上～5：年数回程度の合計）と回答した割合は、70歳以上が54.2%で最も高い。

2 居住年数との相関性

取り上げる問いは年代別と同じである。

(1) 相関表から

相関表Ⅱ (居住年数)

【表 6 2】

	問 1(2) 地域の人と の付き合い	問 1(3) 地域の人と の面識・交 流	問 1(4) 友人・知人と の付き合い・交流	問 2(1) 地域の人へ の信頼	問 2(2) 一般的な人 への信頼	問 3(1)a 地 縁的な活動	問 3(1)b グループや サークル活 動	問 3(1)c ボランティ ア・NPO・ 市民活動
問 5 (5) Pearson の 居住年数 相関係数	.283**	.337**	-.036	.159**	.139**	.223**	.187**	.085*
有意確率 (両側)	.000	.000	.301	.000	.000	.000	.000	.015
度数	843	844	846	839	838	831	833	825

**．相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。

*．相関係数は 5% 水準で有意（両側）です。

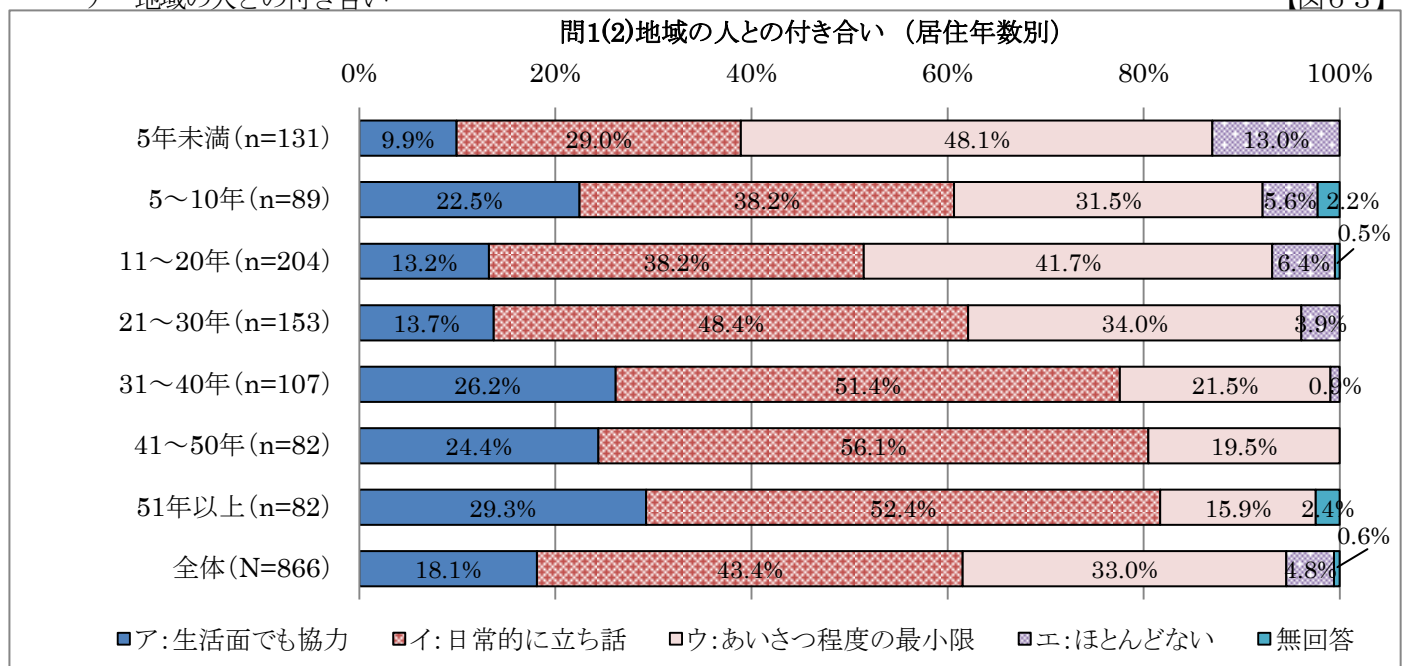
Pearson の相関係数から、問 1(3)との相関が最も認められ、問 1(2)、問 3(1) a にも相関がうかがえる。したがって、ネットワークや社会参加については、年齢が高い人、居住年数が長い人に醸成されているという傾向があることが想定できる。

(2) クロス集計から

① ネットワーク

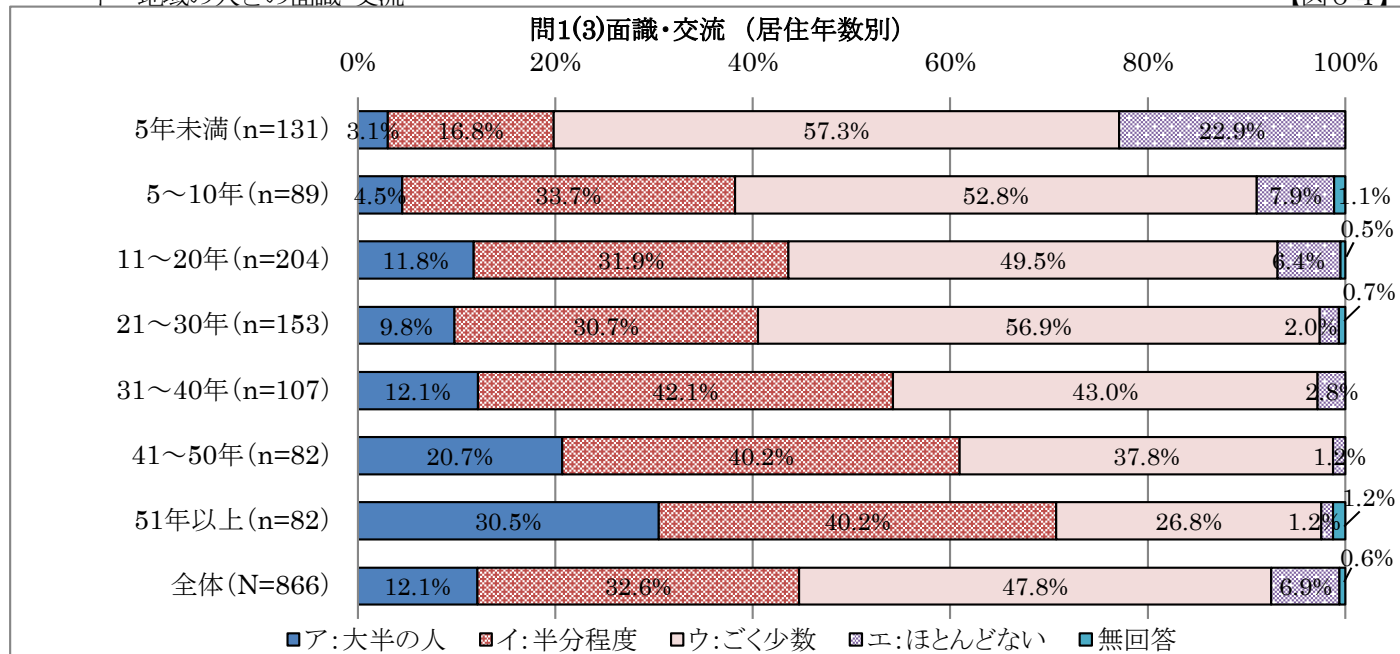
ア 地域の人との付き合い

【図 6 3】

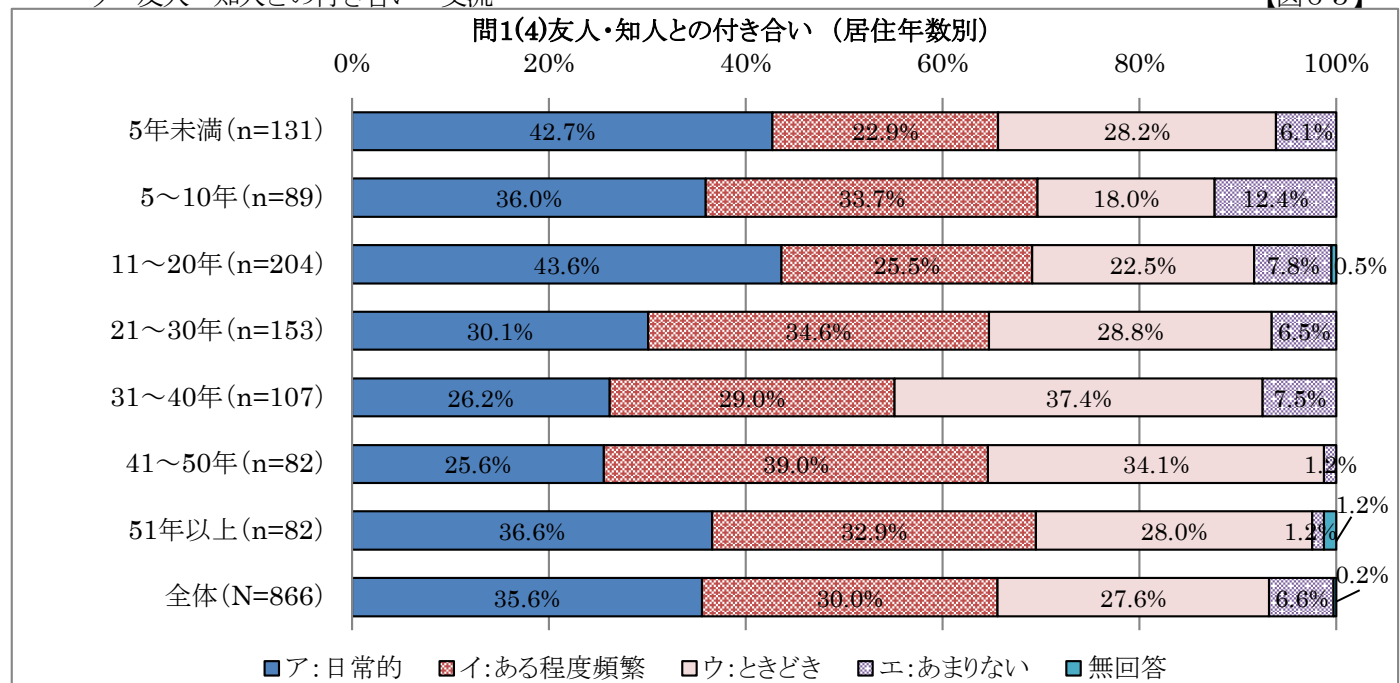


「生活面でも協力」「日常的に立ち話」の合計で見ると、11～20年以降、居住年数が長いほど割合が高くなる。「ほとんどない」は居住年数が長くなるほど割合が低くなり 41～50年以降はいなかった。

5～10年では、「生活面でも協力」が 22.5%、「生活面でも協力」「日常的に立ち話」の合計は 60.7%で、5年未満、11年～20年よりも高い割合である。



「大半の人」「半分程度」の割合で見ると、11～20年は43.7%で21～30年の40.5%よりも3.2ポイント高くなるが、全体的には年代が高くなるにつれて割合も高くなる傾向が見られる。

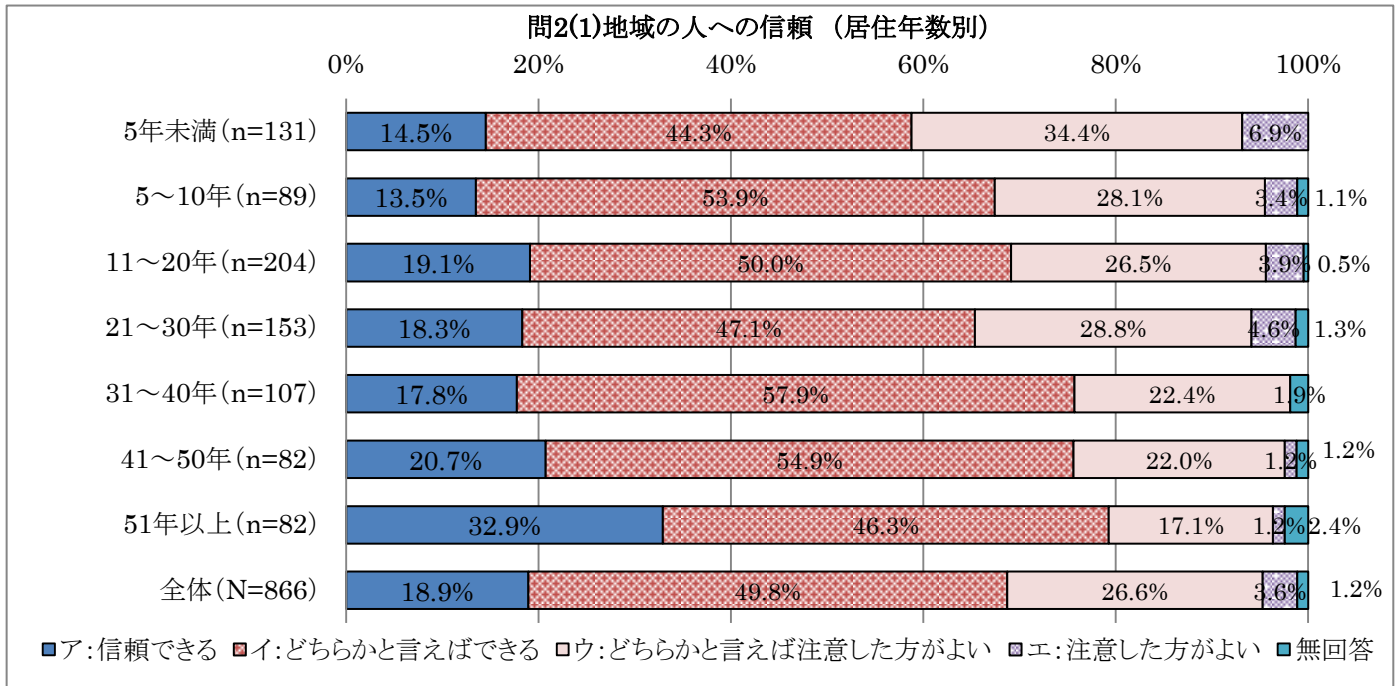


「日常的」は11～20年が最も高く、43.6%、続いて5年未満が42.7%である。「日常的」「ある程度頻繁」の合計で見ると31～40年が55.2%で最も低い。「あまりない」は5～10年が12.4%で最も高い。

② 信頼

ア 地域の人への信頼

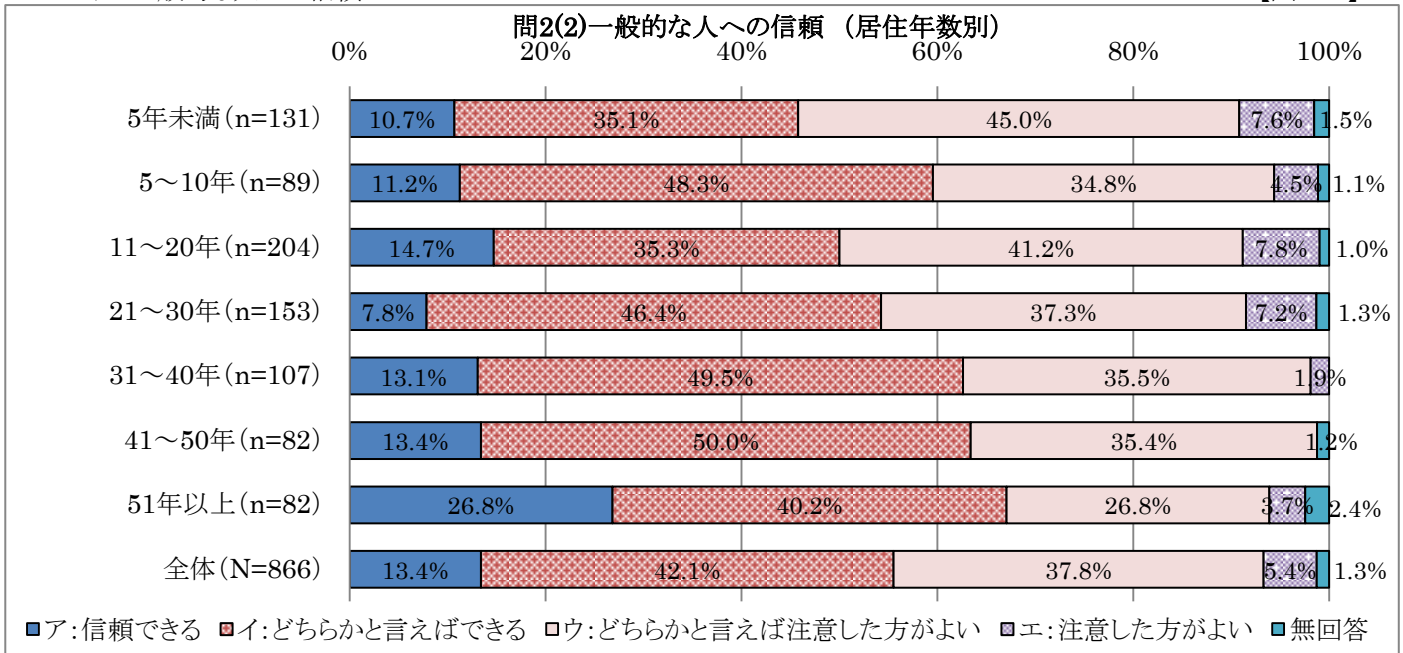
【図 6 6】



「信頼できる」「どちらかと言えばできる」の合計でみると、最も高いのは51年以上で79.2%である。21～30年、41～50年等、完全には当てはまらないが、全体的には年代が高くなるにつれて割合は高くなる傾向が見られる。

イ 一般的な人への信頼

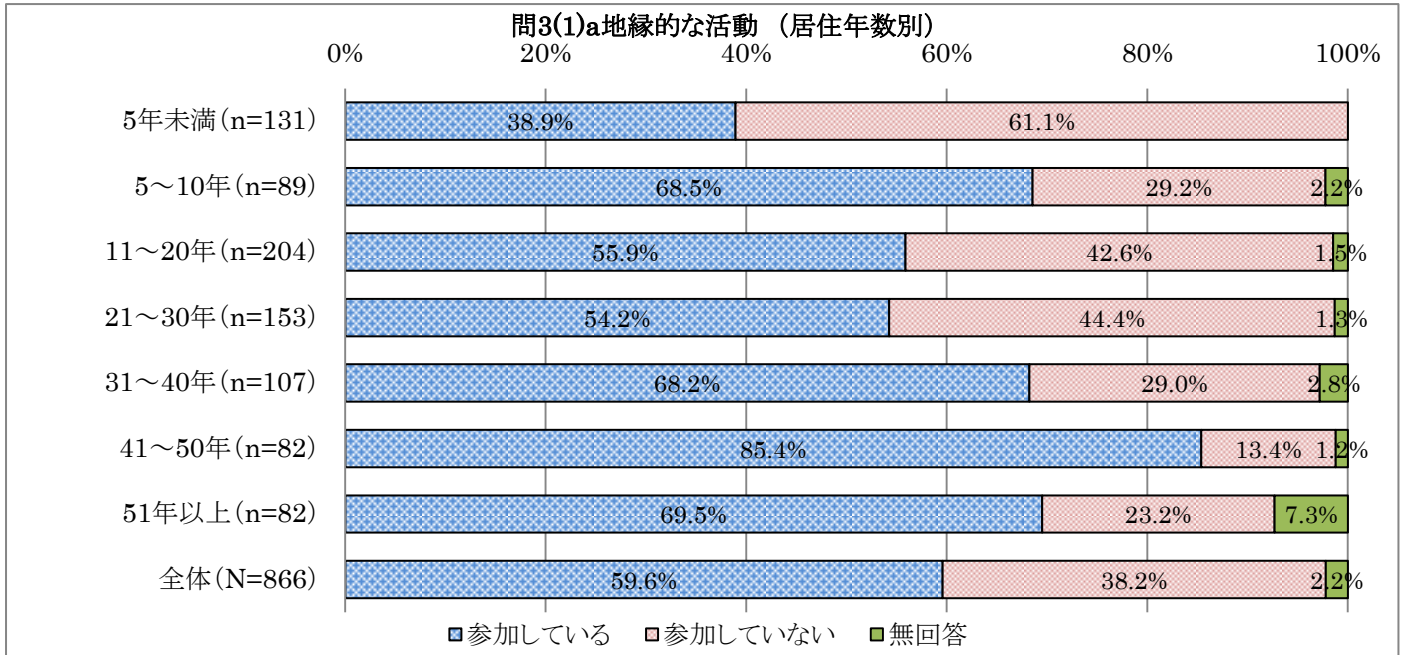
【図 6 7】



「信頼できる」「どちらかと言えばできる」と回答した人の割合の合計では、51年以上が最も高く67.0%である。5～10年は当てはまらないが、全体的には居住年数が長いほど、割合は高くなる傾向が見られる。

③ 社会参加
ア 地縁的な活動

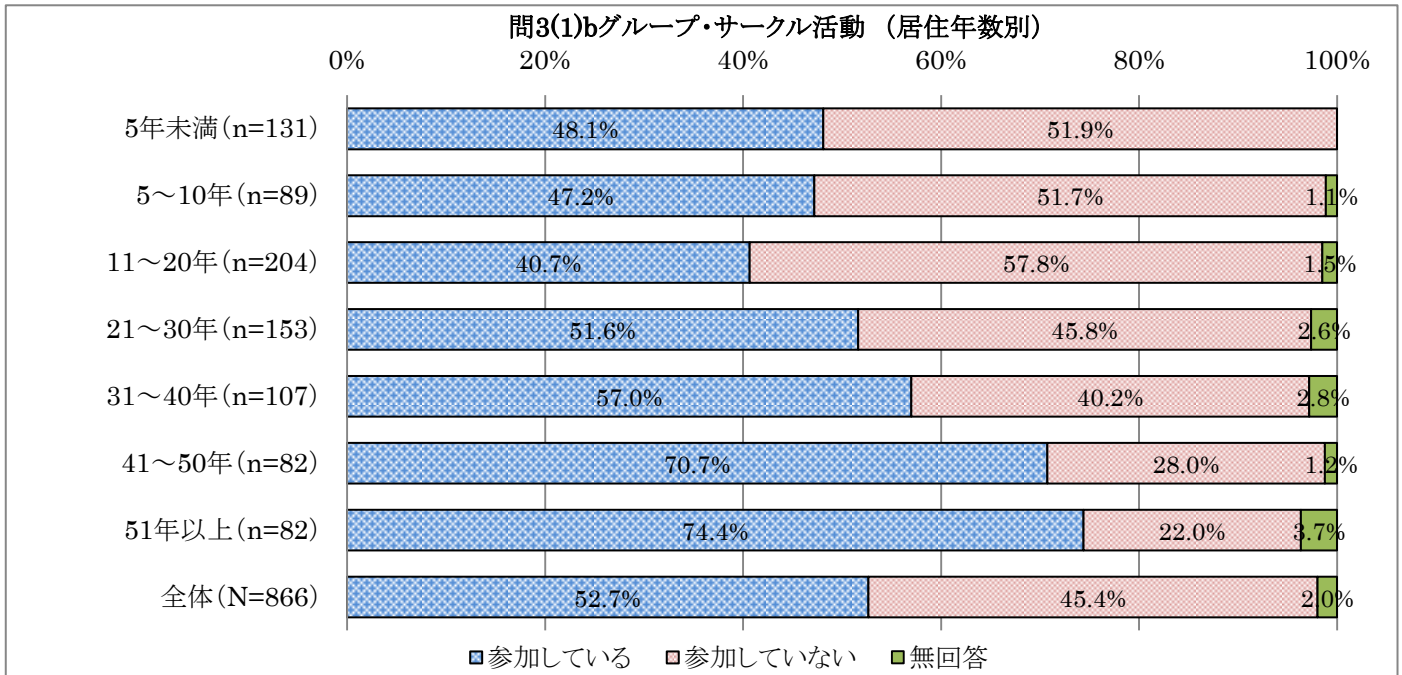
【図68】



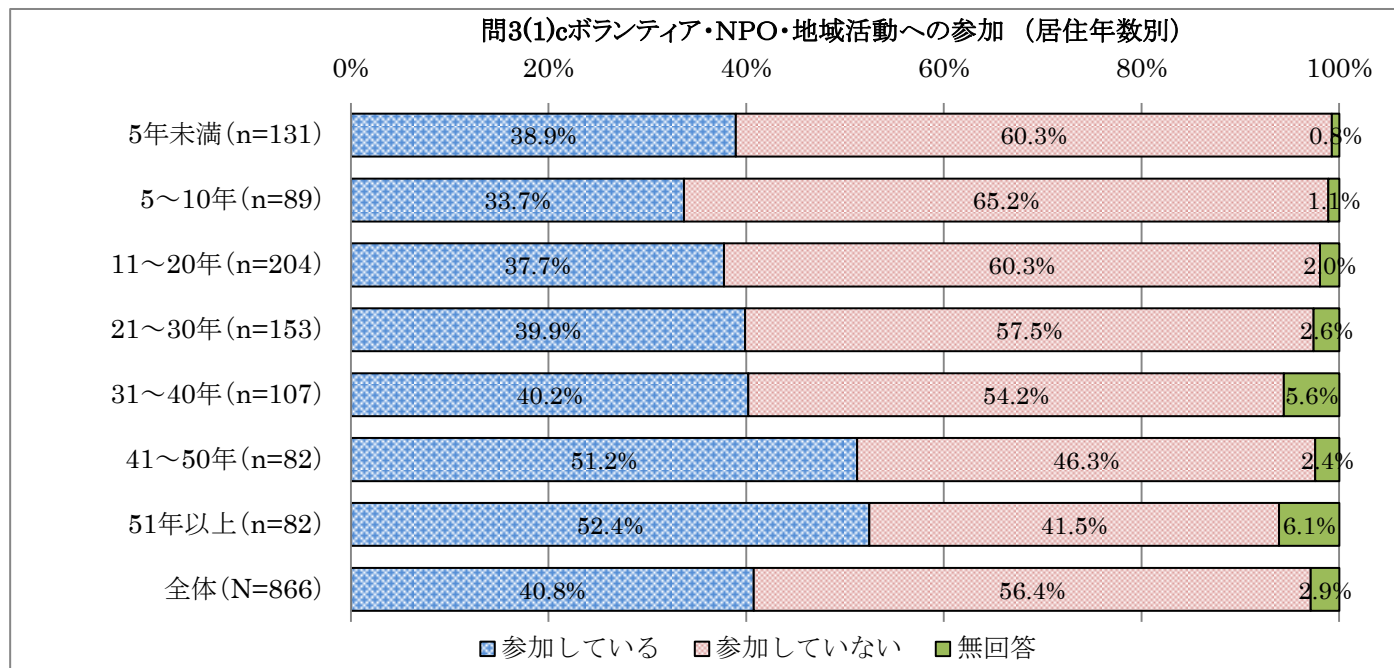
参加しているという回答の割合は、41～50年が85.4%と最も高い。続いて5～10年が68.5%である。最も低いのは5年未満で38.9%である。21～30年から31～40年は14.0ポイント高くなり、31～40年から41～50年は17.2ポイント高くなる。しかし、41～50年から51年以上では、15.9ポイント低くなる。

イ グループ・サークル活動

【図69】



参加しているという回答の割合は、11～20年が最も低く40.7%である。11～20年以降は居住年数が長くなるにつれて参加の割合も高くなり、51年以上では、74.4%で最も高い。



参加しているという回答の割合が最も高かったのは51年以上で52.4%である。5年未満は当てはまらないが、全体的に居住年数が長くなるにつれて参加している割合も高くなる傾向が見られる。

3 同居家族との相関性

(1) 相関表から

同居家族男女別、配偶者、子どもとの同居の有無と各問いとの相関表を示す。上段が男性、下段が女性である。

相関表で取り上げる問いは、年代別、居住年数と同じである。

相関表Ⅲ (同居家族)

【表 7 1】

		問 1(2) 地域の 人との付き合い	問 1(3) 地域の人と の面識・交流	問 1(4) 友人・知人と の 付 き 合 い・交流	問 2(1) 地域の人 は信頼できる か	問 2(2) 一般的に人 は信頼できる か	問 3(1)a 地縁的な活 動	問 3(1)b グループや サークル活 動	問 3(1)c ボランティ ア・NPO・ 市民活動
ア:配偶者 (男性)	Pearson の 相関係数 有意確率 (両側) 度数	.324** .000 316	.190** .001 315	-.105 .063 316	.165** .003 312	.162** .004 314	.343** .000 312	.206** .000 310	.116* .041 310
イ:子ども (男性)	Pearson の 相関係数 有意確率 (両側) 度数	.105 .063 316	.065 .252 315	-.174** .002 316	.131* .021 312	.106 .061 314	.213** .000 312	.080 .160 310	.090 .112 310
ア:配偶者 (女性)	Pearson の 相関係数 有意確率 (両側) 度数	.173** .000 534	.231** .000 536	-.167** .000 537	.057 .187 533	.114** .009 531	.191** .000 525	.180** .000 529	.046 .298 521
イ:子ども (女性)	Pearson の 相関係数 有意確率 (両側) 度数	.200** .000 534	.170** .000 536	-.158** .000 537	-.021 .622 533	.012 .784 531	.243** .000 525	-.030 .498 529	.002 .961 521

**．相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。

*．相関係数は 5% 水準で有意（両側）です。

相関表より、Pearson の相関係数から、男性では配偶者との同居の有無と問 3(1)a が最も認められ、問 1(2)がそれに続く。子どもとの同居の有無では、問 3(1)a に相関性が認められる。

女性では配偶者との同居の有無と問 1(3)に相関性が認められる。子どもとの同居の有無では、問 3(1)a に相関性が認められる。

(2) クロス集計から

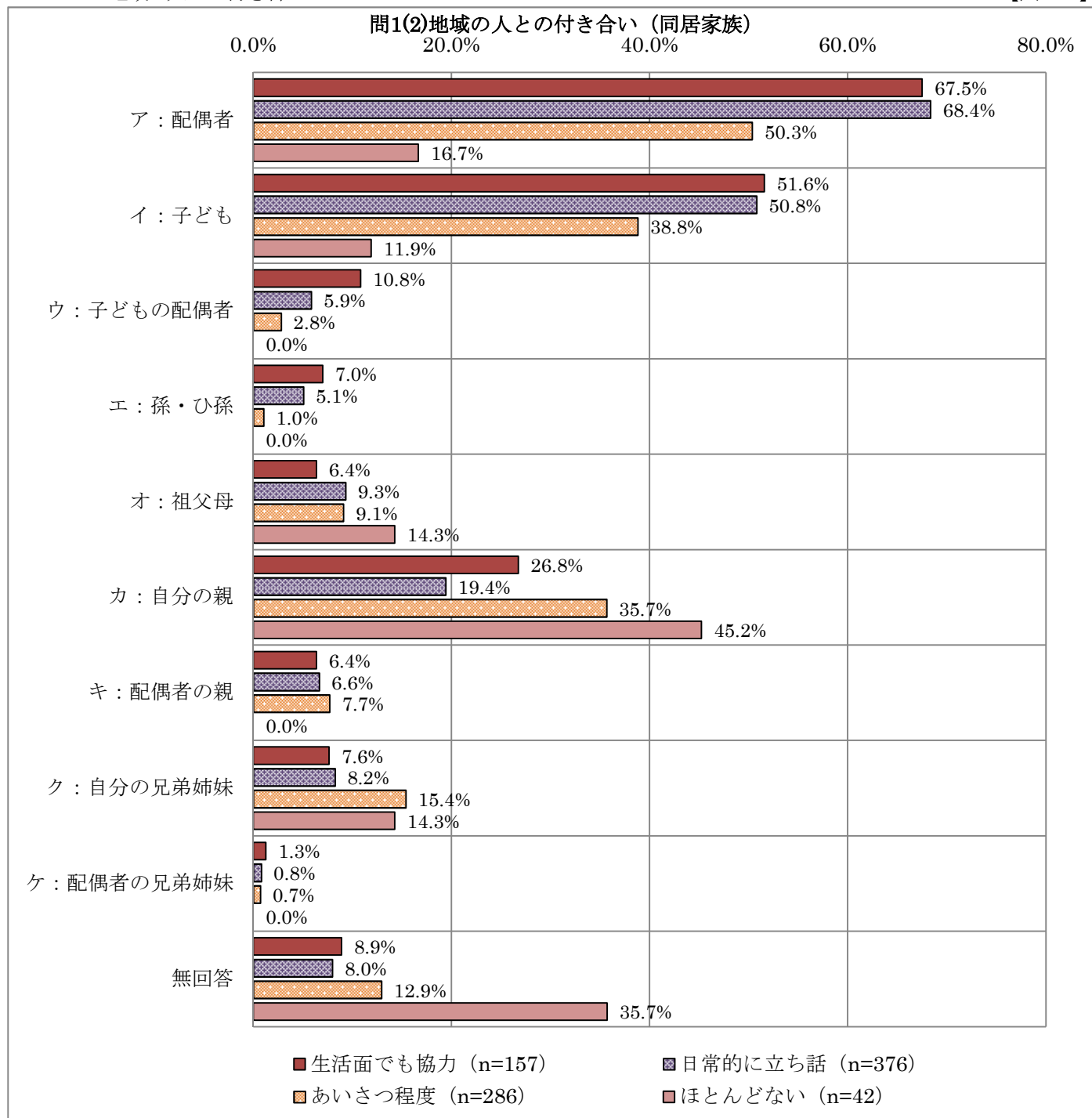
取り上げる問いは、相関から見た相関性の認められるものを中心に、以下の問いとした。

- ・ネットワーク …問 1(2)地域の人との付き合い、問 1(3)地域の人との面識・交流
- ・信頼 …問 2(2)一般的な人への信頼
- ・社会参加 …問 3(1)a 地縁的な活動への参加、問 3(1)c ボランティア・NPO・市民活動への参加

① ネットワーク

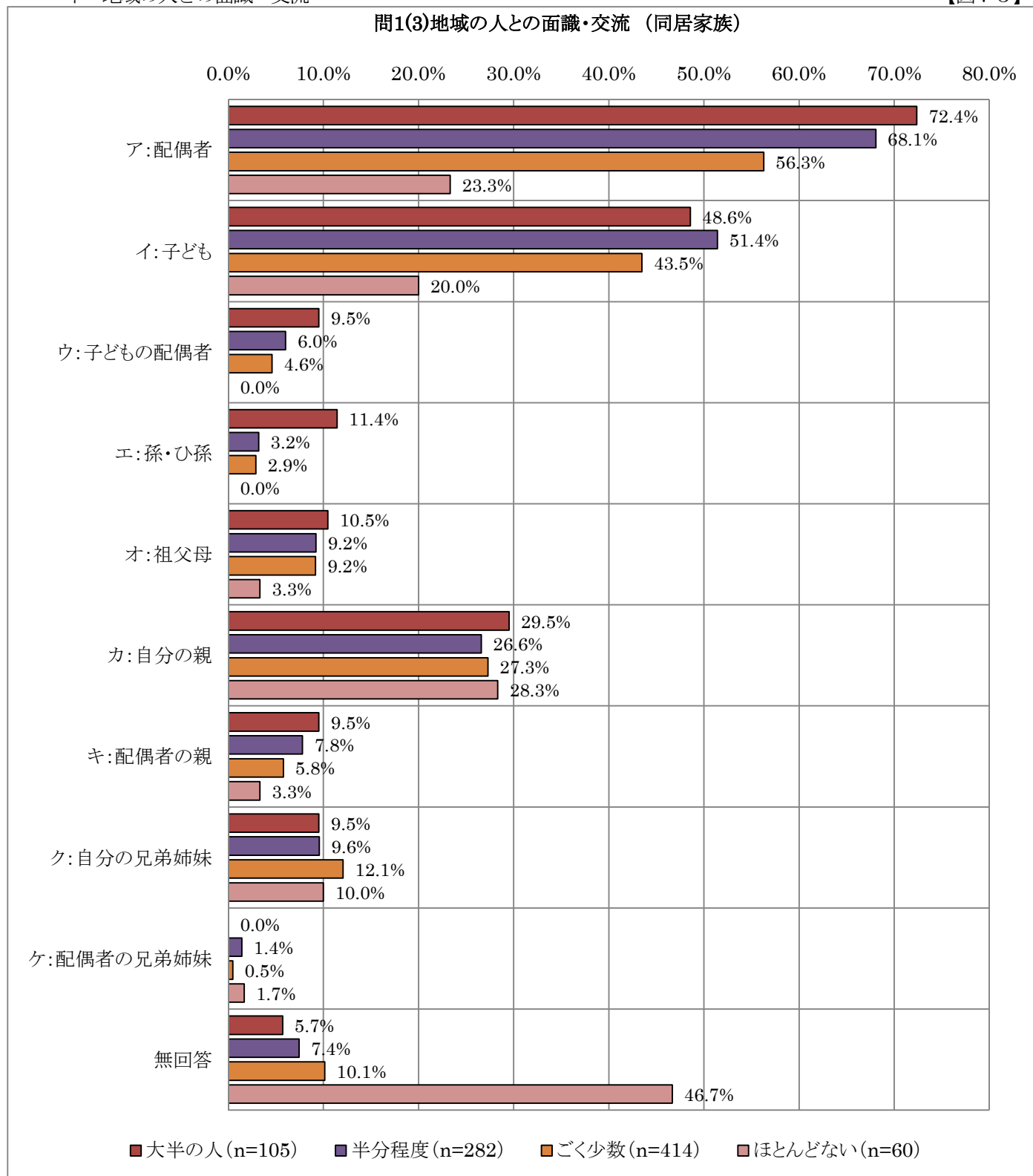
ア 地域の人との付き合い

【図 7 2】



地域の人との付き合いについて、同居家族とのクロス集計を行ったグラフである。これを見ると、最も付き合いが深いと考えた「生活面でも協力」していると回答した人は、67.5%が配偶者と同居しており、51.6%は子どもと同居していると回答している。

「ほとんど」付き合いがない人の特徴としては、配偶者との同居は16.7%、子どもとの同居は11.9%であった。また、自分の親との同居では45.2%で、「生活面でも協力」「日常的に立ち話」と回答した人よりも、高い割合である。さらに、無回答が35.7%となっている、今回の選択肢の中では、独り暮らし・同居していない等がなかったため、それらに該当する回答者は無回答となっている割合も高いと考えられる。



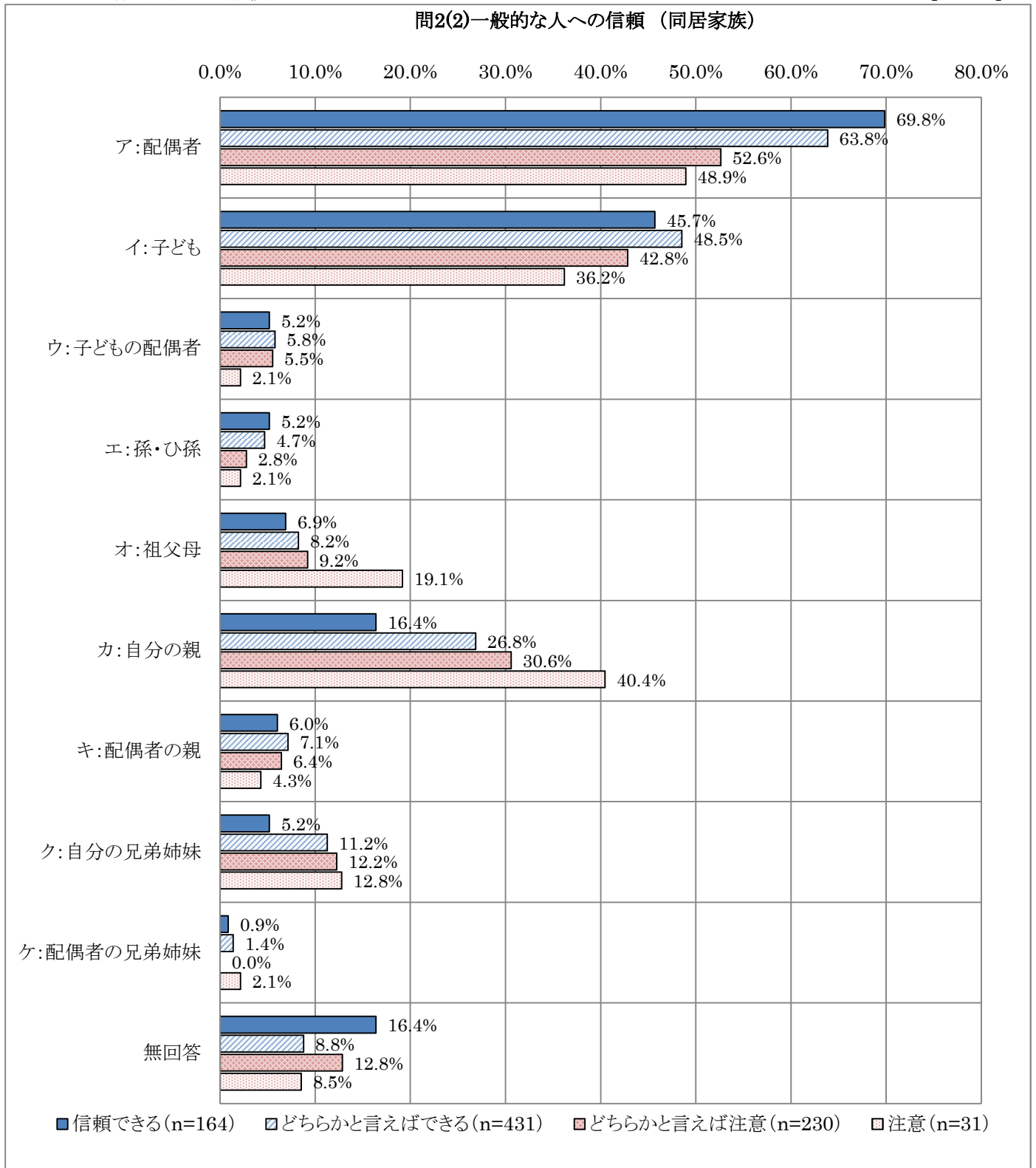
地域の人との面識・交流についても、「大半の人」との付き合いがあると回答した人は72.4%が配偶者との同居、48.6%が子どもとの同居と回答している。それに対して「ほとんどない」と回答した人は、「無回答」が46.7%と半数近くに上っている。

したがって、ネットワークの要素となる人とのつながりを作る要因の1つとして、家族との同居の有無が考えられる。

② 信頼

ア 一般的な人への信頼

【図 7 4】

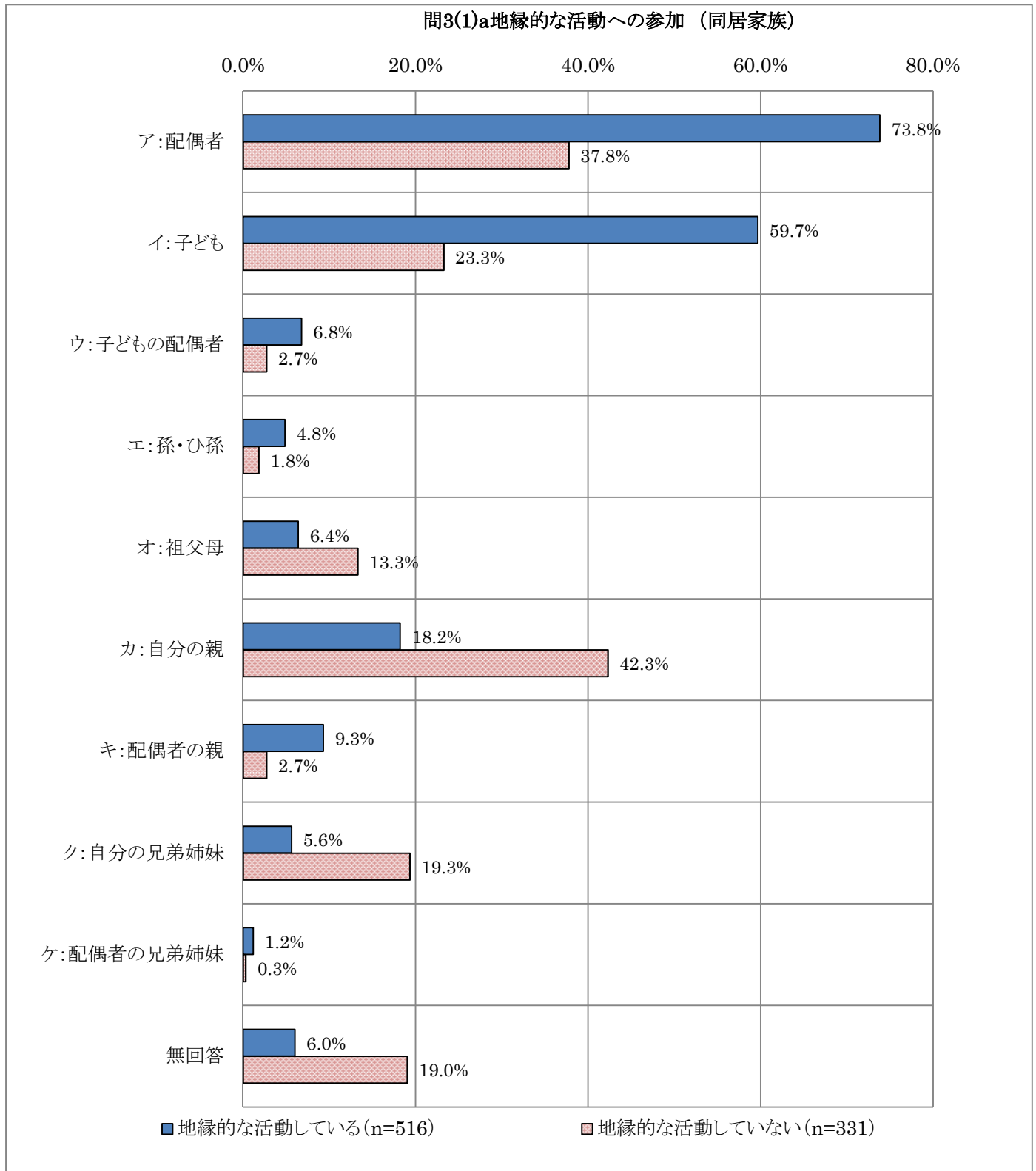


一般的な人への信頼とのクロス集計結果である。「信頼できる」と回答した人のうち、69.8%は配偶者と同居しており、子どもとの同居は 45.7%である。「注意」と回答した人では配偶者との同居は 48.9%で、子どもとの同居は 36.2%で「信頼できる」と比べて低い割合である。また、「注意」と回答した人の 40.4%は自分の親と同居していると回答しており、「信頼できる」の 16.4%と比べて約 2.5 倍である。無回答での特徴はあまり見られない。

③ 社会参加

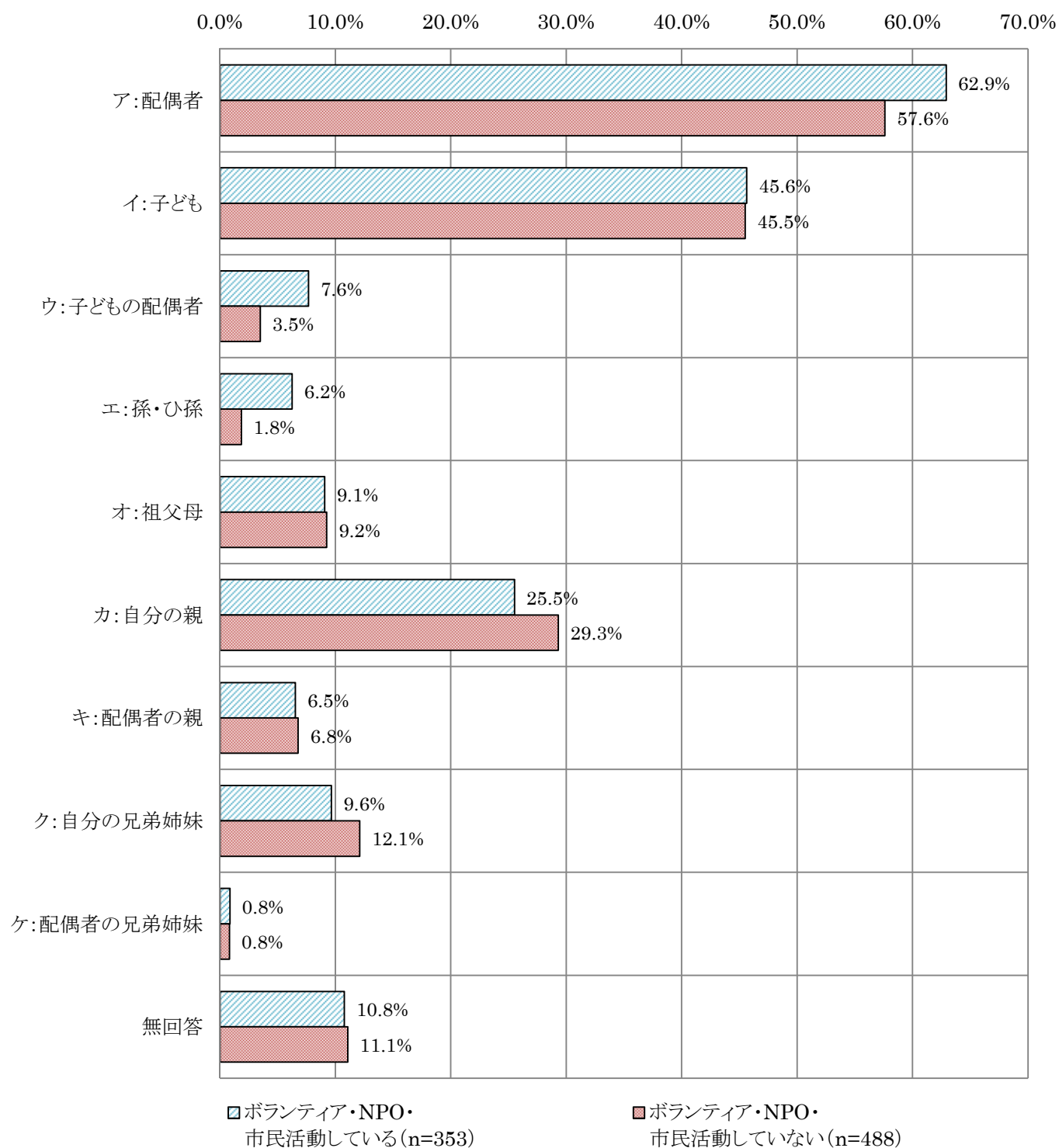
ア 地縁的な活動への参加

【図 7 5】



地縁的な活動への参加とのクロス集計結果である。地縁的な活動をしている人では配偶者との同居は73.8%、子どもとの同居は59.7%である。地縁的な活動をしていない人では配偶者との同居は37.8%、子どもとの同居は23.3%でいずれも活動している人を大きく下回っている。また、地縁的な活動をしていない人は自分の親と同居している割合が42.3%で、活動している人の2倍以上である。無回答では地縁的な活動をしていない人が19.0%で、活動をしている人6.0%の3倍以上である。

問3(1)cボランティア・NPO・市民活動への参加（同居家族）



ボランティア・NPO・市民活動をしている人では、配偶者との同居は62.9%、子どもとの同居は45.6%である。活動をしていない人では配偶者との同居は57.6%、子どもとの同居は45.5%である。配偶者との同居では5.3ポイント、子どもとの同居では0.1ポイント活動している人が上回っているが、これまで取り上げてきた問いと比べるとその差は小さい。

4 ソーシャル・キャピタルの要素同士の相関性

ここでは、以下の問い同士のクロス集計を行った結果を示す。取り上げた問いは、以下のとおりである。

- ・ネットワーク…問 1(2)地域の人とのつながり、問 1(3)地域の人との面識・交流、
- ・信頼…問 2(2)一般的な人への信頼
- ・社会参加…問 3(1)a 地縁的な活動への参加、c ボランティア・NPO・市民活動への参加

(1) 相関表から

相関表Ⅳ (ソーシャル・キャピタルの要素)

【表 7 7】

		問 1(2) 地域の人との付 き合い	問 1(3) 地域の人との面 識・交流	問 2(2) 一般的な人へ の信頼	問 3(1)a 地縁的な活動	問 3(1)c ボランティア・ NPO・市民活動
問 1(2) 地域の人との付き合い	Pearson の相関係数	1	.550**	.274**	.390**	.220**
	有意確率 (両側)		.000	.000	.000	.000
	度数	861	858	852	844	838
問 1(3) 地域の人との面識・交 流	Pearson の相関係数	.550**	1	.263**	.371**	.183**
	有意確率 (両側)	.000		.000	.000	.000
	度数	858	861	853	844	838
問 1(4) 友人・知人との付き合 い・交流	Pearson の相関係数	.174**	.210**	.188**	.161**	.248**
	有意確率 (両側)	.000	.000	.000	.000	.000
	度数	861	861	855	847	841
問 2(2) 一般的な人への信頼	Pearson の相関係数	.274**	.263**	1	.238**	.201**
	有意確率 (両側)	.000	.000		.000	.000
	度数	852	853	855	840	835
問 3(1)a 地縁的な活動	Pearson の相関係数	.390**	.371**	.238**	1	.403**
	有意確率 (両側)	.000	.000	.000		.000
	度数	844	844	840	847	836
問 3(1)c ボランティア・NPO・ 市民活動	Pearson の相関係数	.220**	.183**	.201**	.403**	1
	有意確率 (両側)	.000	.000	.000	.000	
	度数	838	838	835	836	841

**、相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

*、相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

相関表から Pearson の相関係数から、ソーシャル・キャピタルの多くの要素間同士に相関性が認められる。

ネットワーク同士の問いである問 1(2)と問 1(3)は、表の中で最も高い数値が認められる。

ネットワークと信頼の問いである問 2(2)についても、問 1(2)、問 1(3)と相関性が認められる。問 1(2)と問 1(3)では、問 1(2)の方が若干数値が高く現れており、一般的な人への信頼への意識は、地域の人との面識・交流があることよりも地域の人との深い付き合いの方が影響があるものと思われる。

ネットワークと社会参加をみると、問 1(2)は問 3(1)a、問 3(1)c の双方に相関性が認められ、特に a 地縁的な活動への参加の方に数値が高く現れている。

信頼と社会参加については、問 2(2)と問 3(1)a と問 3(1)c に相関性が認められ、特に問 3(1)a 地縁的な活動への参加の方に数値が高く現れている。

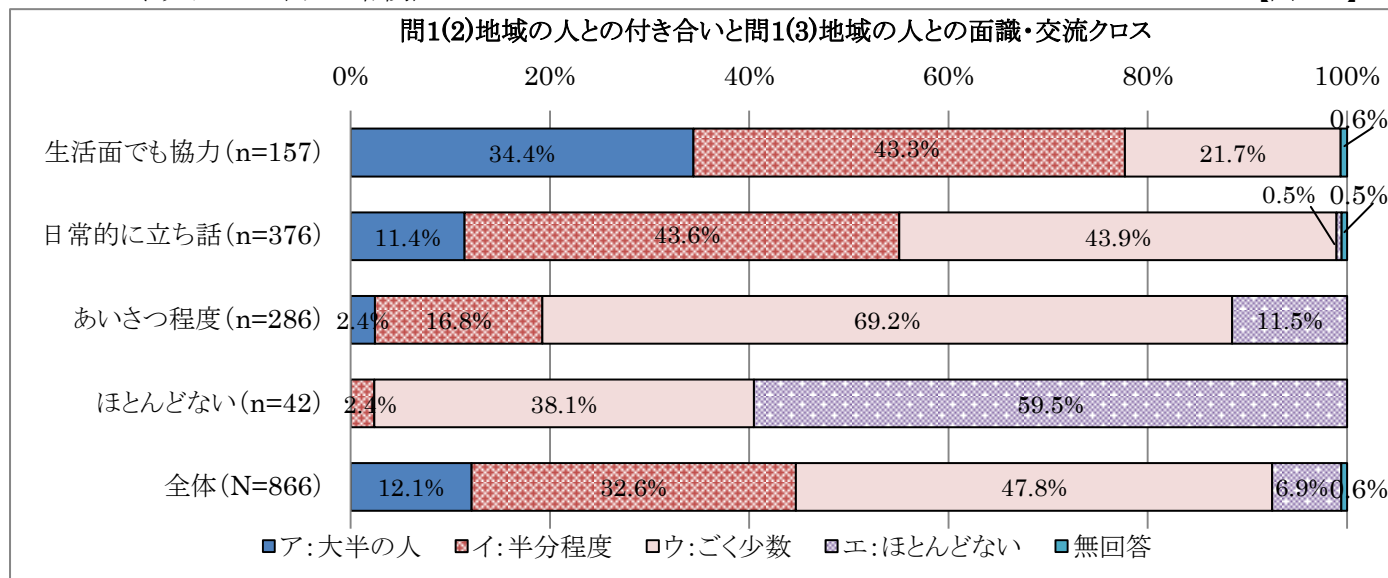
社会参加の問いである問 3(1)a と問 3(1)c にも相関係数が認められ、地域活動に参加している人は、多様な地域活動に参加している傾向があることがうかがえる。

(2) クロス集計結果より

① ネットワークとの相関性

ア ネットワーク同士の相関性Ⅰ

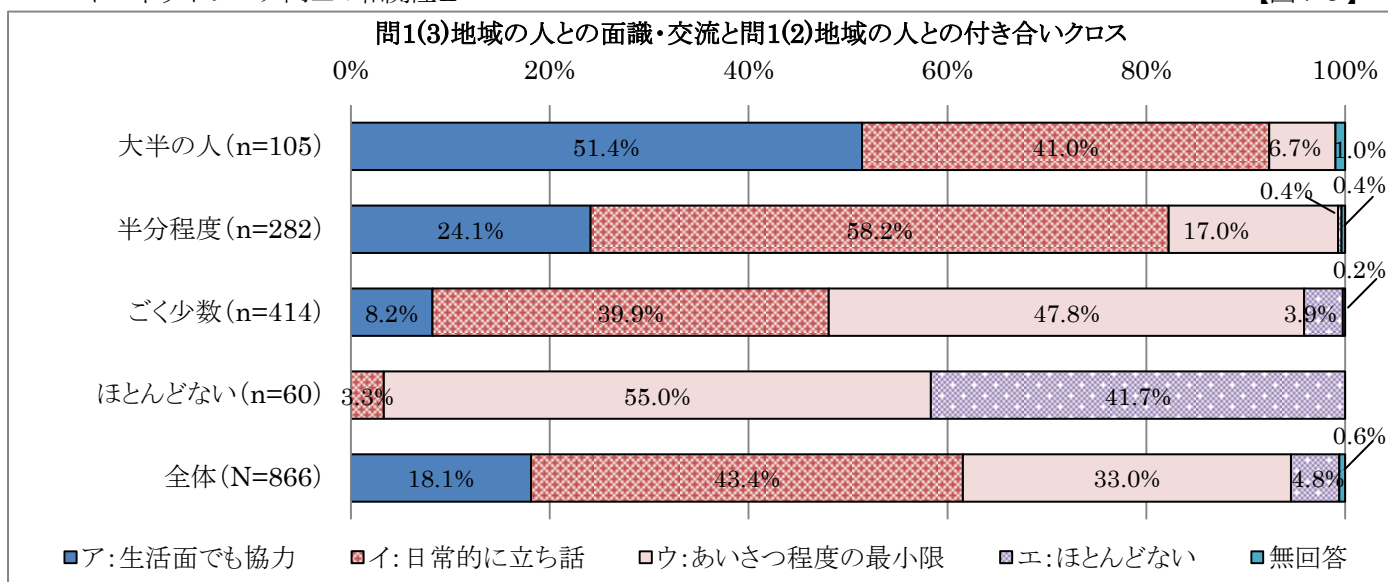
【図 7 8】



「大半の人」と面識・交流があると回答した割合は、「生活面でも協力」していると回答した人が34.4%で最も高い。「大半の人」「半分程度」の人と面識・交流があると回答した割合は、「生活面でも協力」していると回答した人の77.7%である。地域の人との付き合いが「ほとんどない」と回答した人のうち、地域の人との面識も「ほとんどない」と回答した人は59.5%に上る。「生活面でも協力」「日常的に立ち話」など地域の人との付き合いが深い人ほど、地域の多くの人との面識・交流があると回答した割合も高くなる傾向が見られる。ただし、「生活面でも協力」していると回答した人のうち、面識・交流している人が「ほとんどない」と回答した割合は21.7%である。したがって、地域の人との面識・交流がほとんどない人でも、地域の人と深く付き合っている人は必ずしも少なくはないと思われる。

イ ネットワーク同士の相関性Ⅱ

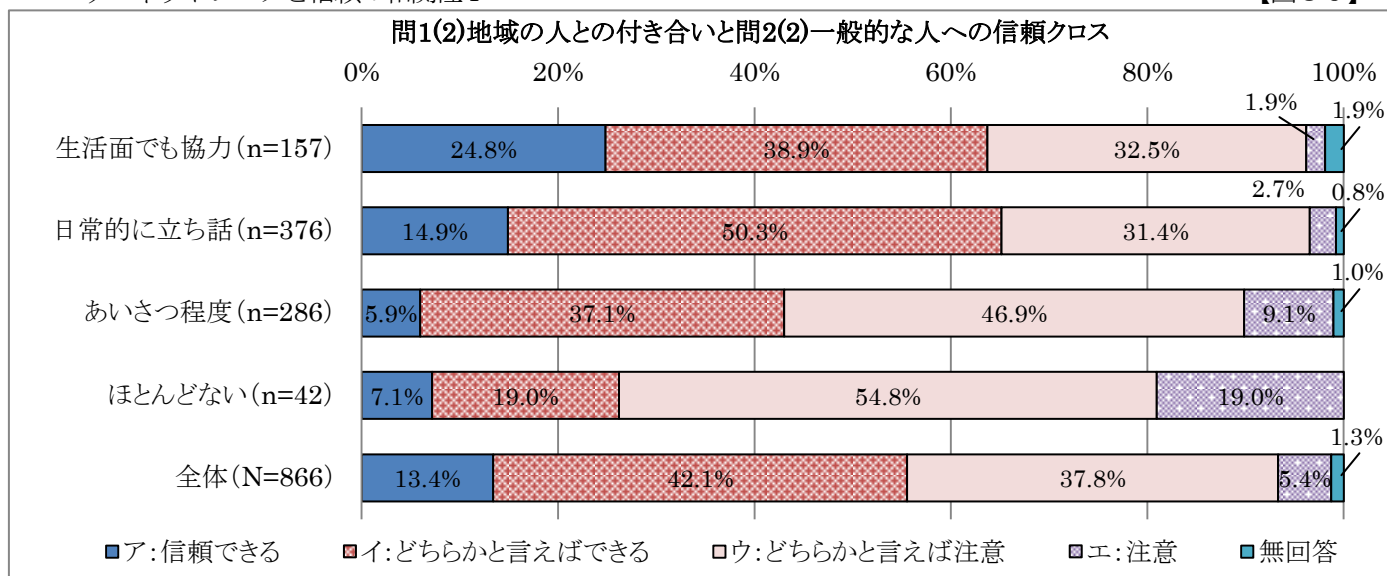
【図 7 9】



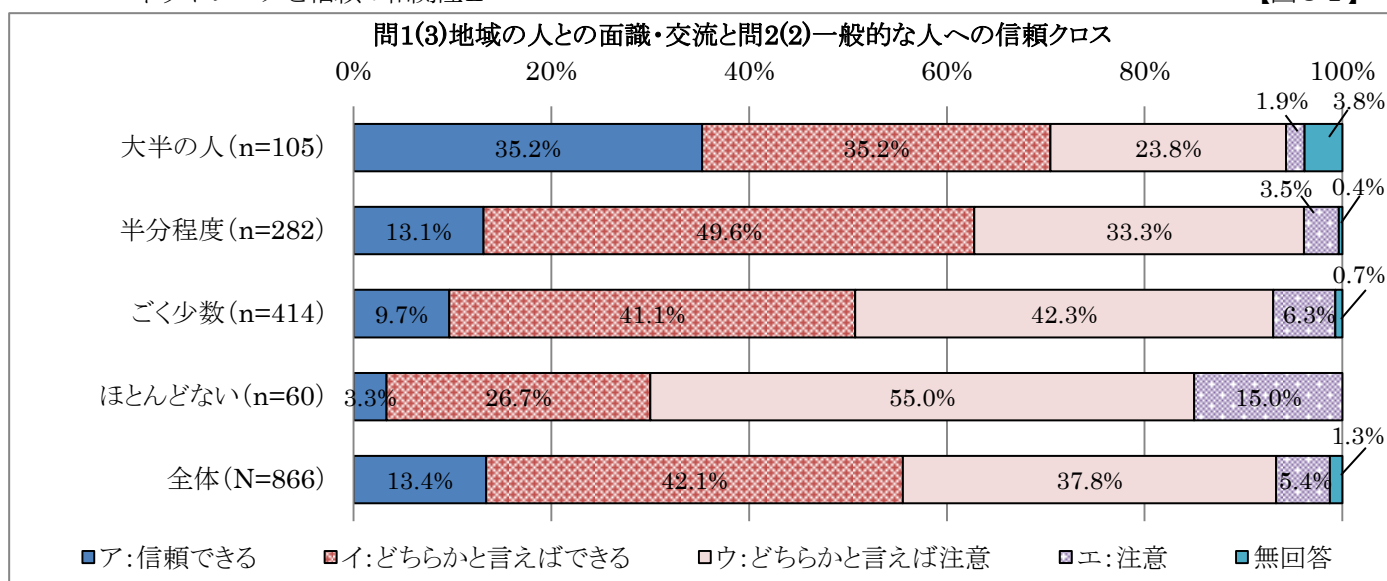
地域の人との面識・交流から見た地域の人との付き合いについてクロス集計した結果である。

「生活面でも協力」を選択した割合は、「大半の人」と面識・交流があると回答した人が51.4%で最も高い。「生活面でも協力」と「日常的に立ち話」を合計した割合では92.4%である。また、面識・交流が「ほとんどない」と回答した人で地域の人との付き合いが「ほとんどない」を選択した人は41.7%に上る。

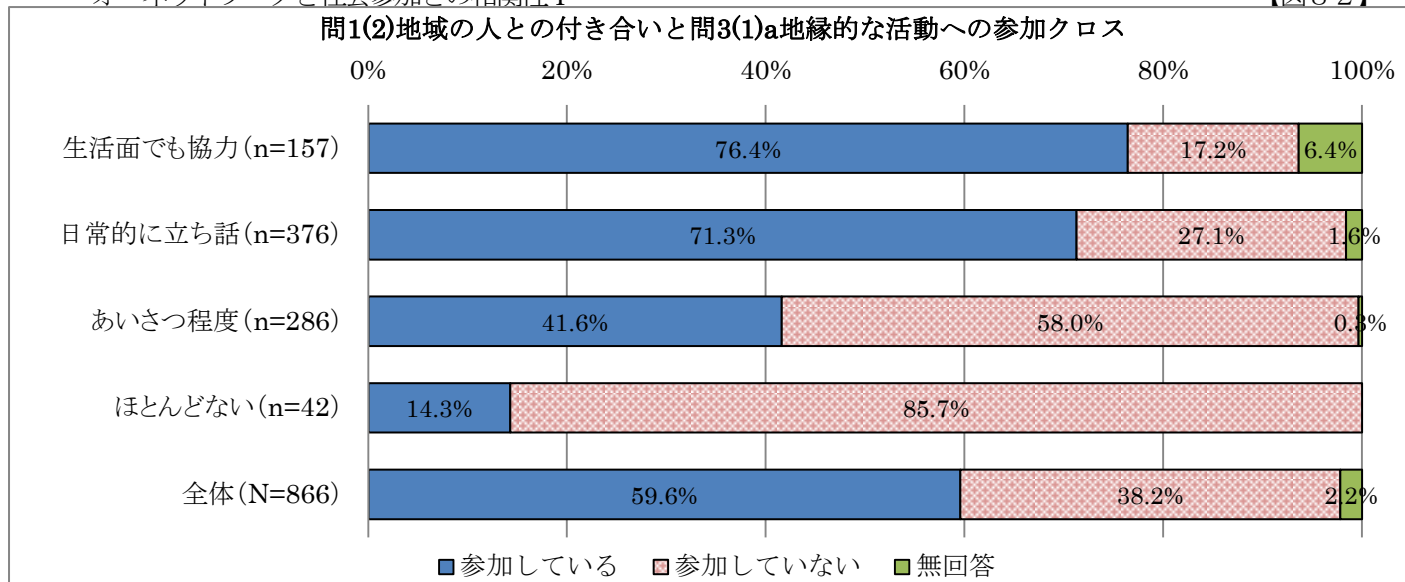
地域の多くの人と面識・交流がある人ほど、「生活面でも協力」「日常的に立ち話」など地域の人との深い付き合いをしている割合が高くなる傾向が見られる。



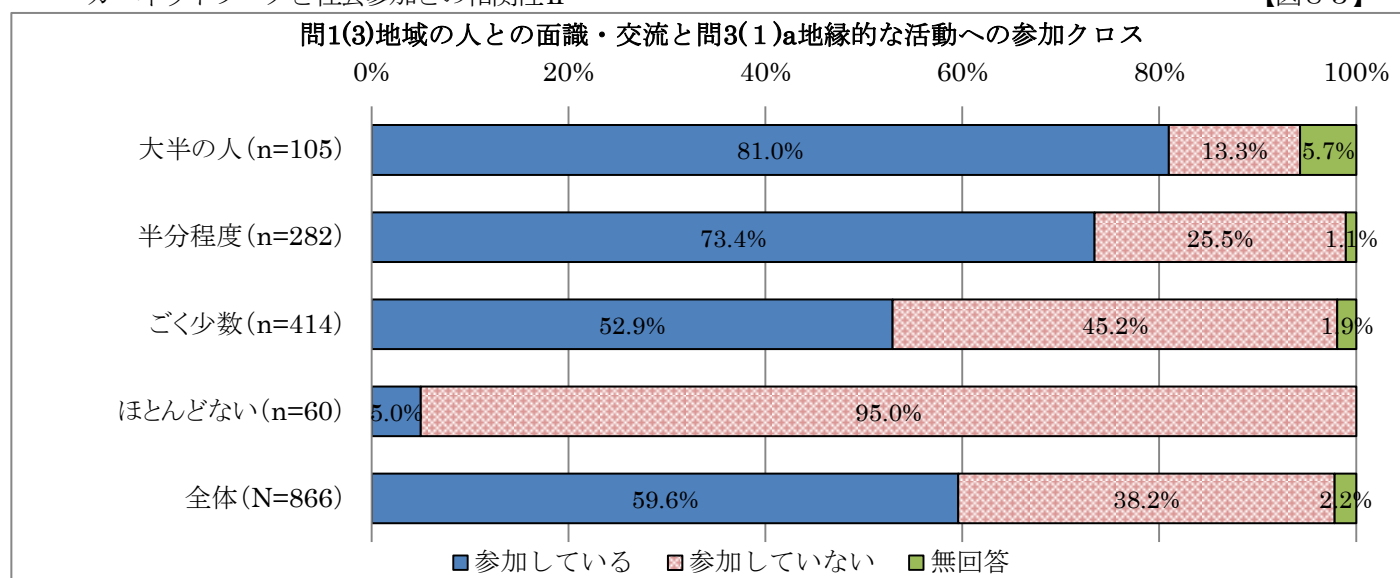
一般的に人は「信頼できる」と回答した割合は、地域の人と「生活面でも協力」と回答した人が24.8%で最も高い。「注意」した方がよいと回答した割合は、「日常的に立ち話」では2.7%、「あいさつ程度」9.1%、「ほとんどない」は19.0%で、地域の人との付き合いが浅くなるほど、一般的に人は「注意」するに越したことはないという割合が高くなる傾向が見られる。



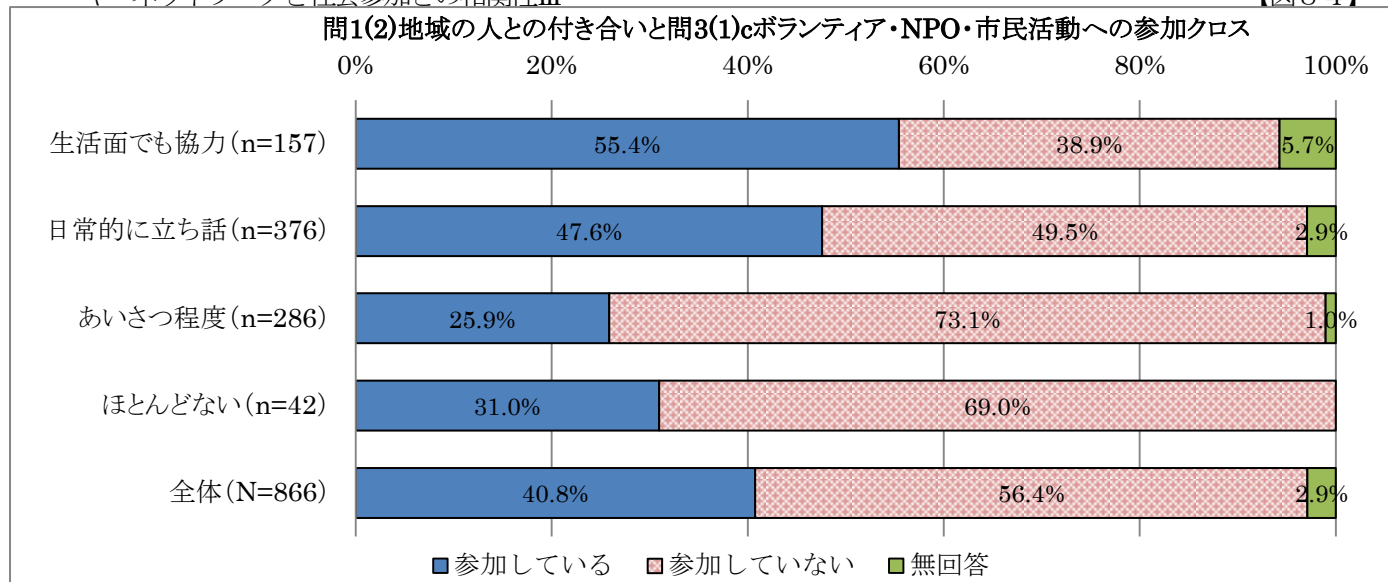
一般的に人は「信頼できる」と回答した割合は、地域の「大半の人」と面識・交流があると回答した人が35.2%最も高く、面識・交流のある人が多くなるにつれて「信頼できる」という割合が高くなる傾向が見られる。「注意」した方がよいという割合は、地域の人との面識・交流が少なくなるほど、一般的に人は「注意」するに越したことはないという割合が高くなる傾向が見られる。



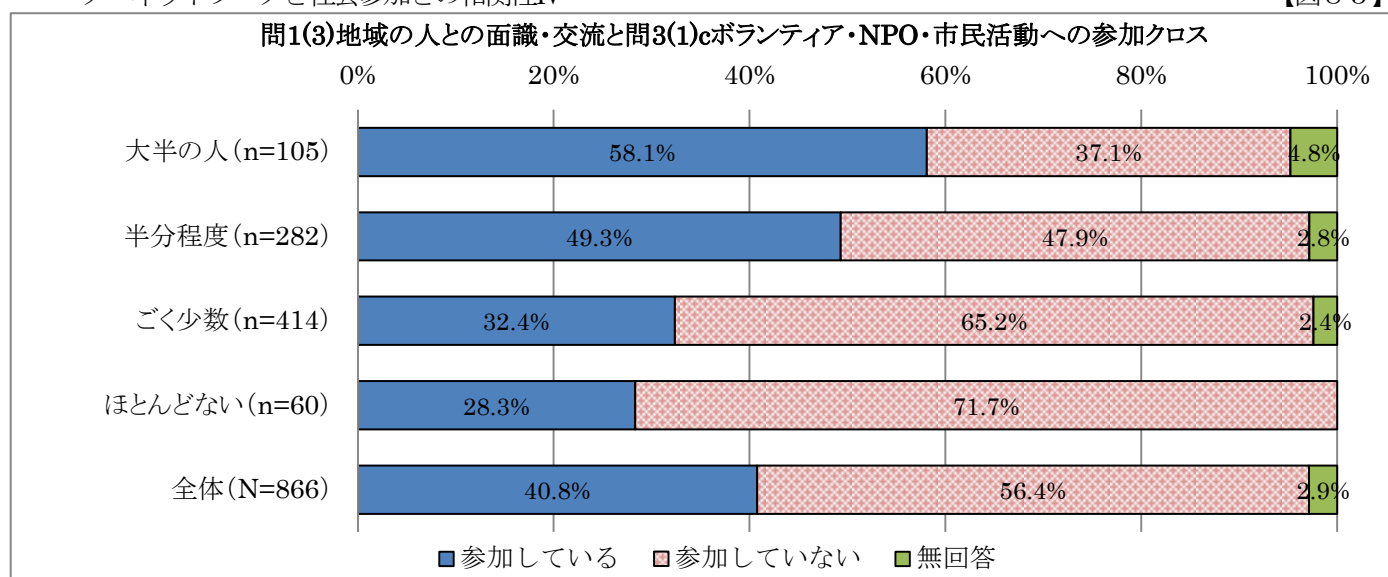
地縁的な活動に「参加している」割合は、「生活面でも協力」と回答した人が76.4%で最も高く、地域の人との付き合いが「ほとんどない」と回答した人では14.3%で最も低い。地域の人との深い付き合いをしていると回答した人の方が、「参加している」割合が高くなる傾向が見られる



地縁的な活動に「参加している」割合は、地域の「大半の人」と面識・交流があると回答した人が、81.0%で最も高く、地域の人との面識・交流が「ほとんどない」と回答した人では5.0%で最も低い。地域の多くの人と面識・交流があると回答した人の方が、「参加している」割合が高くなる傾向が見られる。



ボランティア・NPO・市民活動に参加していると回答した人の割合は、地域の人と「生活面でも協力」していると回答した人が55.4%で最も高く、地域の人と深い付き合いをしている人の方が、ボランティア・NPO・市民活動に参加している割合が高いことが分かる。しかし、「ほとんどない」と回答した人は「あいさつ程度」と回答した人よりも5.1ポイント上回り、地域の人との付き合いが浅いとボランティア・NPO・市民活動に参加する割合が低いとは言えない。

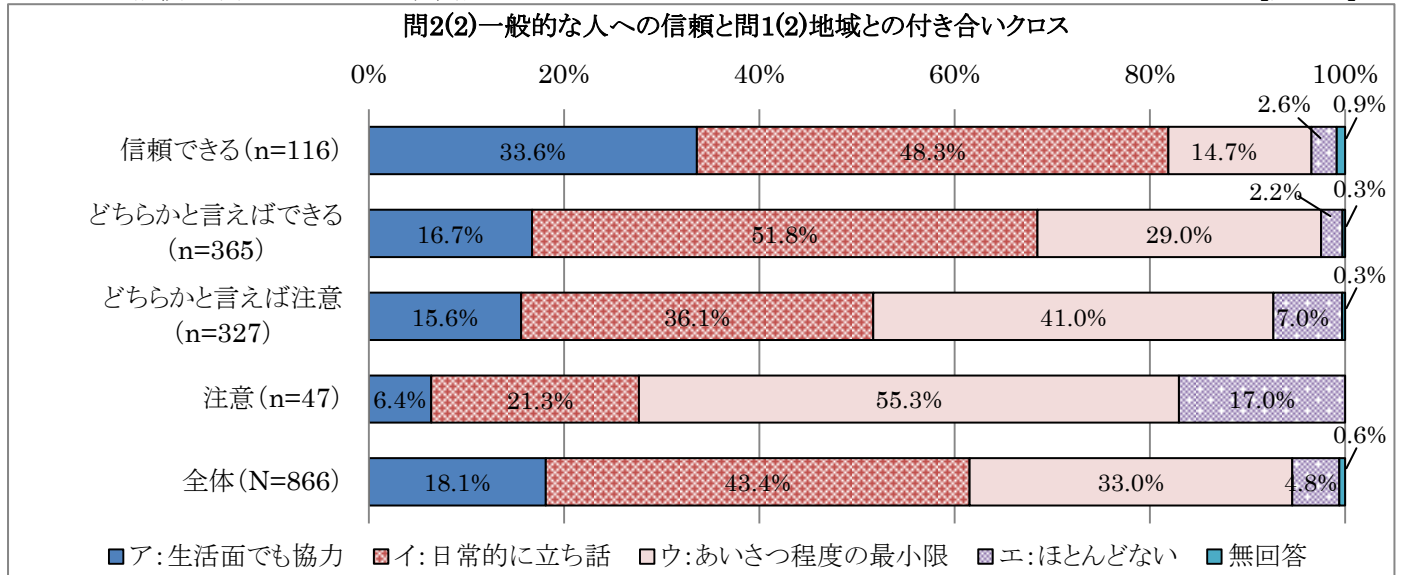


ボランティア・NPO・市民活動に参加していると回答した人の割合は、地域の「大半の人」と面識・交流があると回答した人は58.1%で最も高く、地域の人との面識・交流が「ほとんどない」と回答した人は28.3%で最も低かった。地域の多くの人と面識・交流があると回答した人の方が、ボランティア・NPO・市民活動に参加している割合が高い。

② 信頼との相関性

ア 信頼とネットワークとの相関性Ⅰ

【図 8 6】

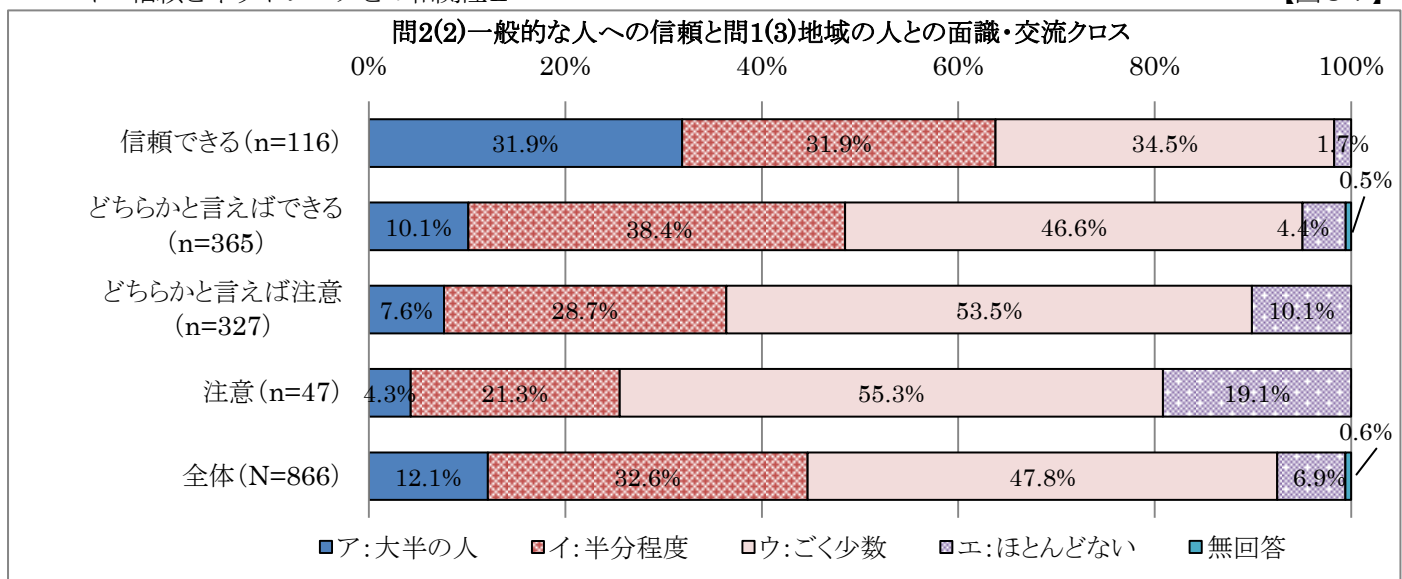


一般的な人への信頼から見た地域の人との付き合いについてクロス集計した結果である。

一般的に人は「信頼できる」と回答した人のうち、「生活面でも協力」と回答した割合は33.6%で最も高い。「生活面でも協力」と「日常的に立ち話」を合計した割合では、81.9%である。一般的に人は「注意」するに越したことはない」と回答した人で、「生活面でも協力」と回答した割合は、6.4%である。一般的に人を信頼している人と回答した人ほど、「生活面でも協力」「日常的に立ち話」など地域の人と深い付き合いをしている割合が高くなる傾向が見られる。

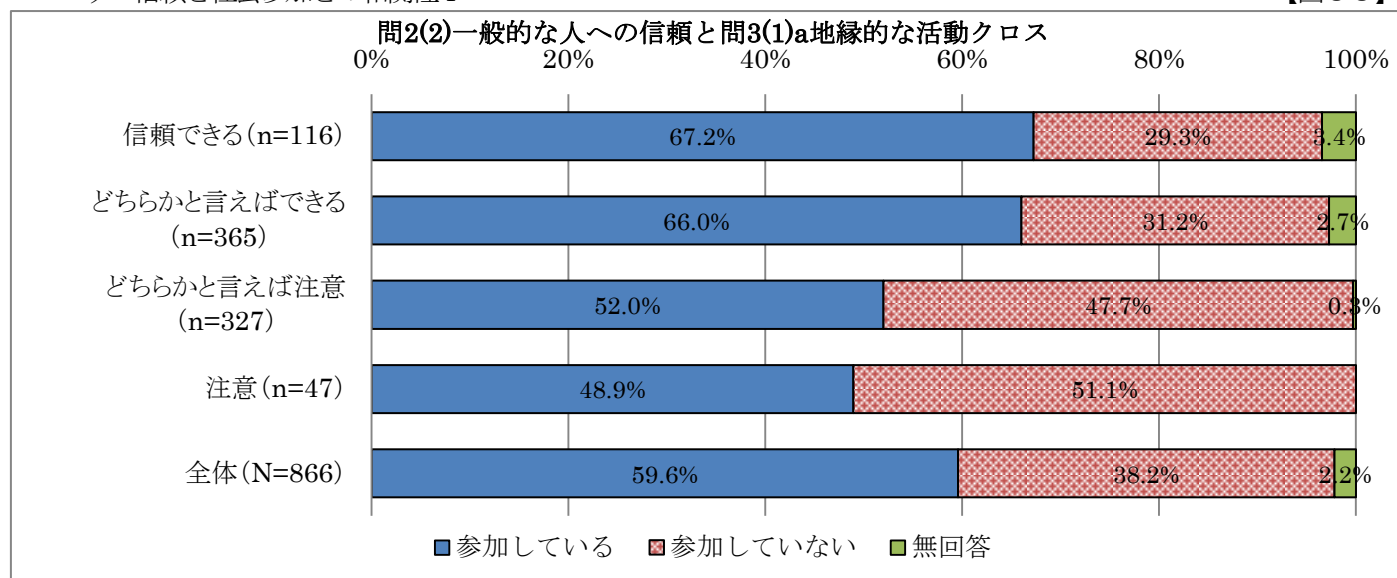
イ 信頼とネットワークとの相関性Ⅱ

【図 8 7】

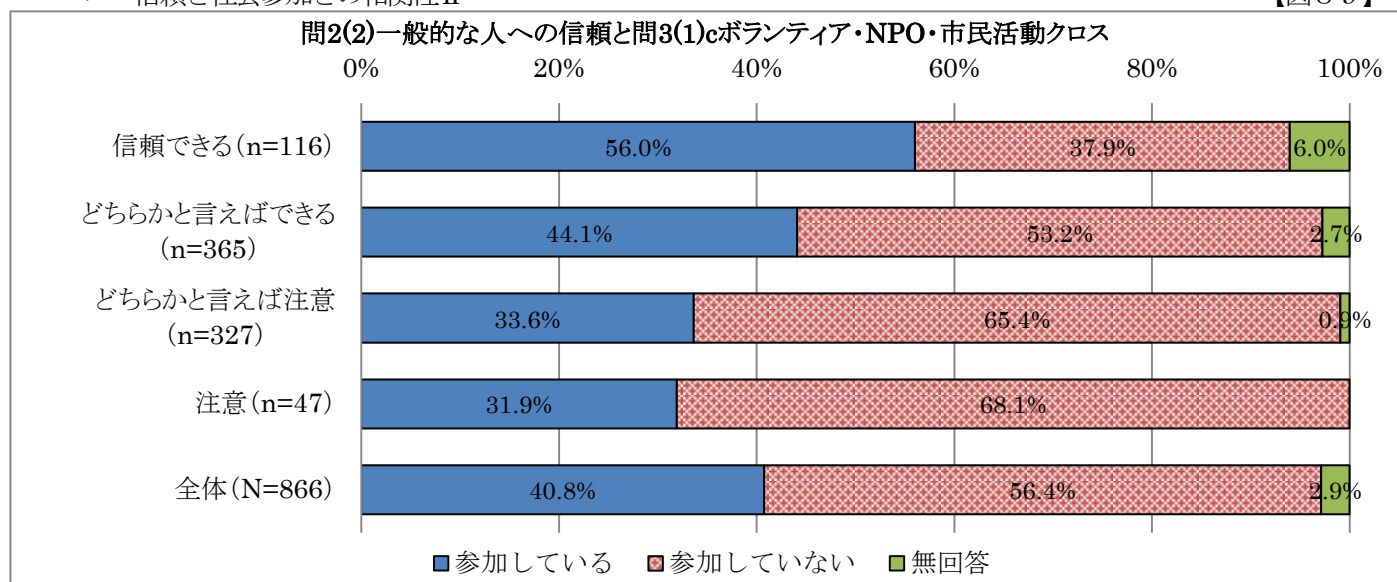


一般的な人への信頼から見た地域の人との面識・交流についてクロス集計した結果である。

一般的に人を「信頼できる」と回答した人のうち、地域の「大半の人」との面識・交流があると回答した人は、31.9%である。一般的に人は「注意」するに越したことはない」と回答した人では、4.3%である。一般的に人を信頼している人ほど、地域の多くの人と面識・交流があると回答した割合も高くなる傾向が見られる。



地縁的な活動に参加していると回答した割合は、一般的に人は「信頼できる」と回答した人では67.2%で最も高く、一般的に人は「注意」するに越したことはない」と回答した人では、48.9%であった。地域の人との面識交流があると回答した人の方が、参加している割合が高くなる傾向が見られる。

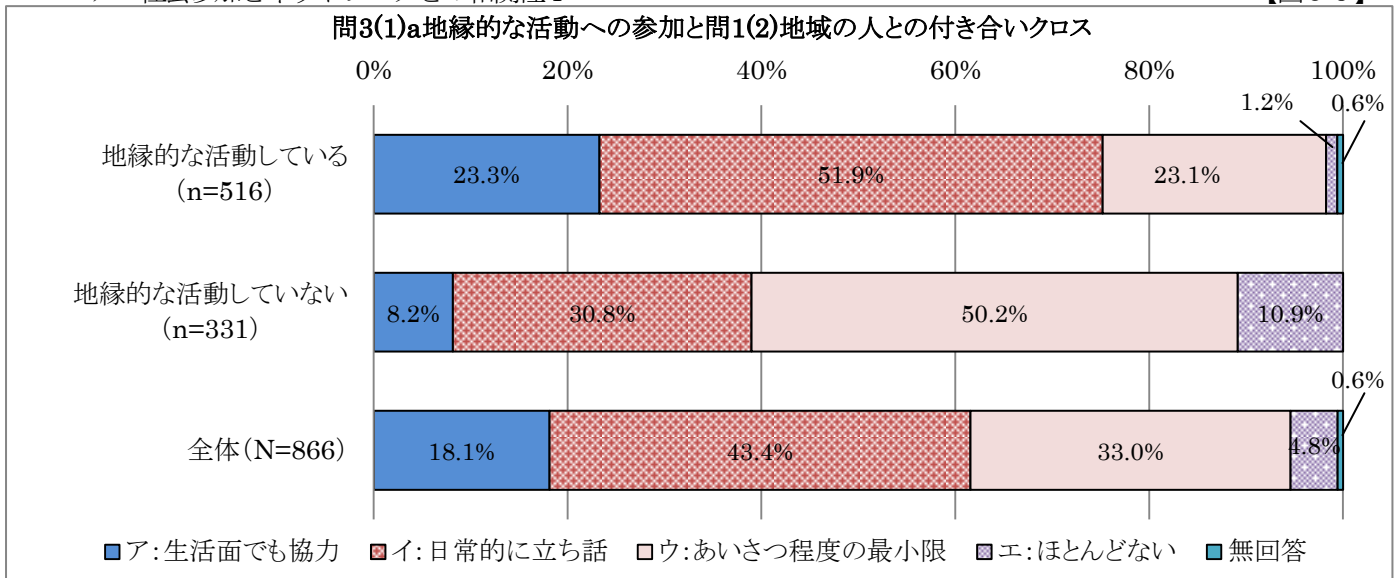


ボランティア・NPO・市民活動に参加していると回答した人の割合は、一般的に人は「信頼できる」と回答した人が56.0%で最も高く、一般的に人は「注意」するに越したことはない」と回答した人では、31.9%であった。一般的に人は「信頼できる」と回答した人の方が、ボランティア・NPO・市民活動に参加している割合が高くなる傾向が見られる。

③ 社会参加との相関性

ア 社会参加とネットワークとの相関性Ⅰ

【図 9 0】

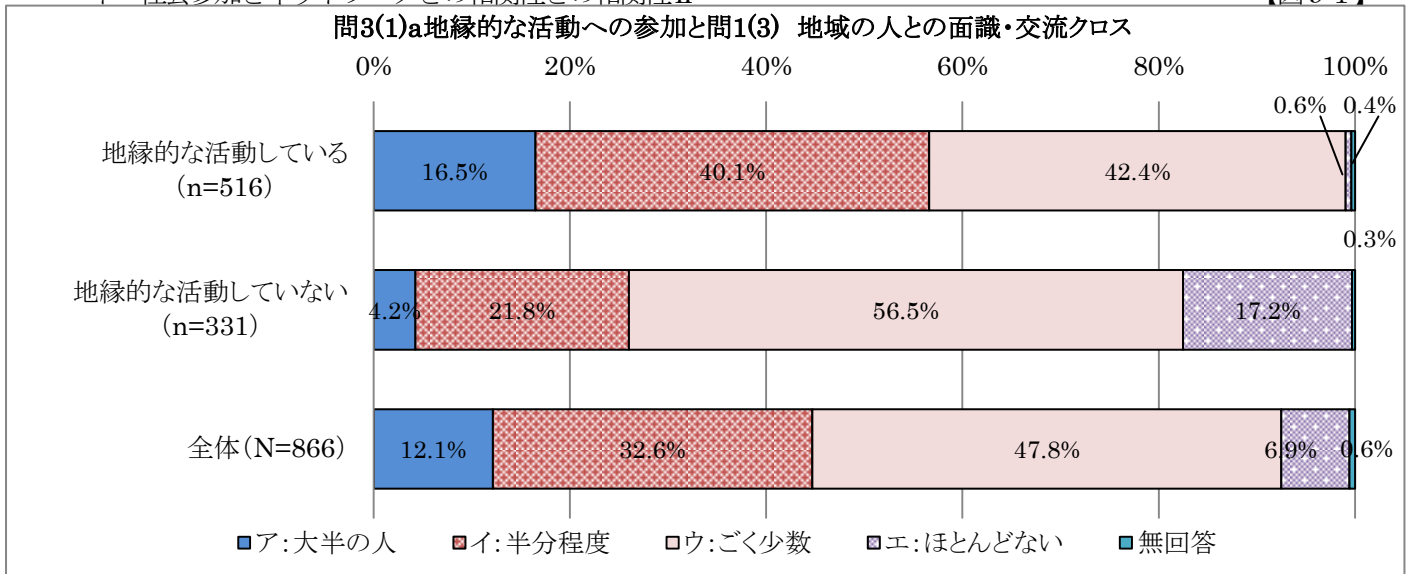


地縁的な活動への参加から見た、地域の人との付き合いについてクロス集計の結果である。

「生活面でも協力」の割合は、地縁的な活動に参加している人では23.3%で、地縁的な活動に参加していないと回答した人の8.2%と比べると3倍近くである。「地縁的な活動をしている人」の方が、「生活面でも協力」「日常的に立ち話」など地域の人と深い付き合いをしている割合が高くなる傾向が見られる。

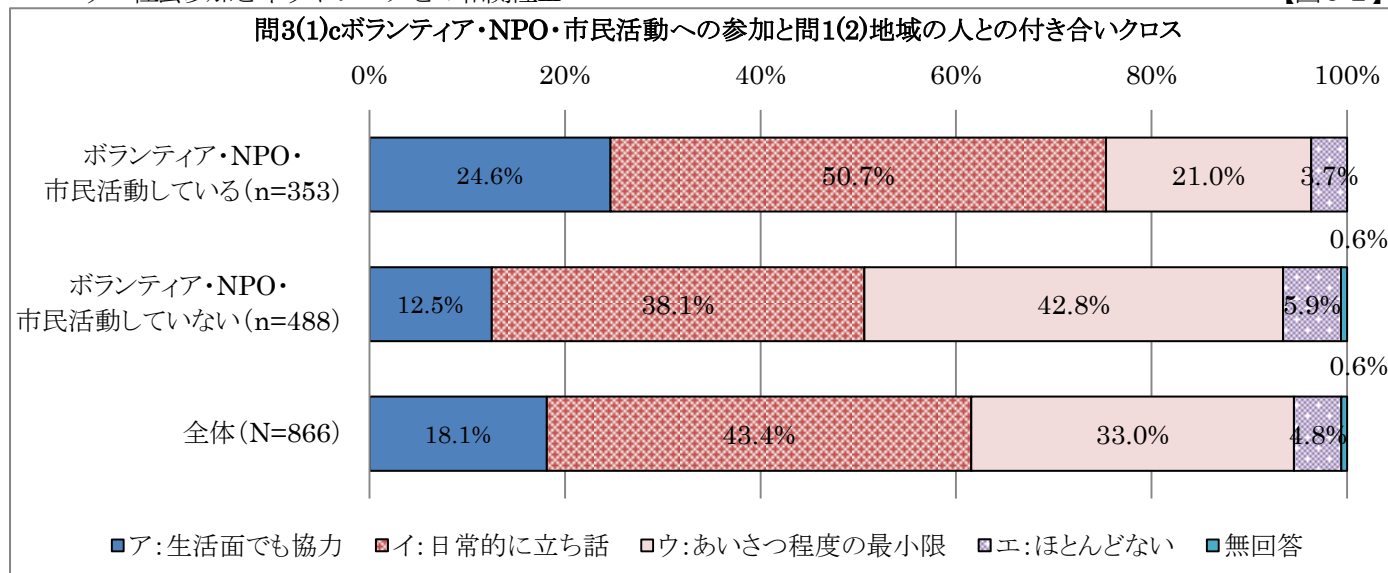
イ 社会参加とネットワークとの相関性Ⅱ

【図 9 1】



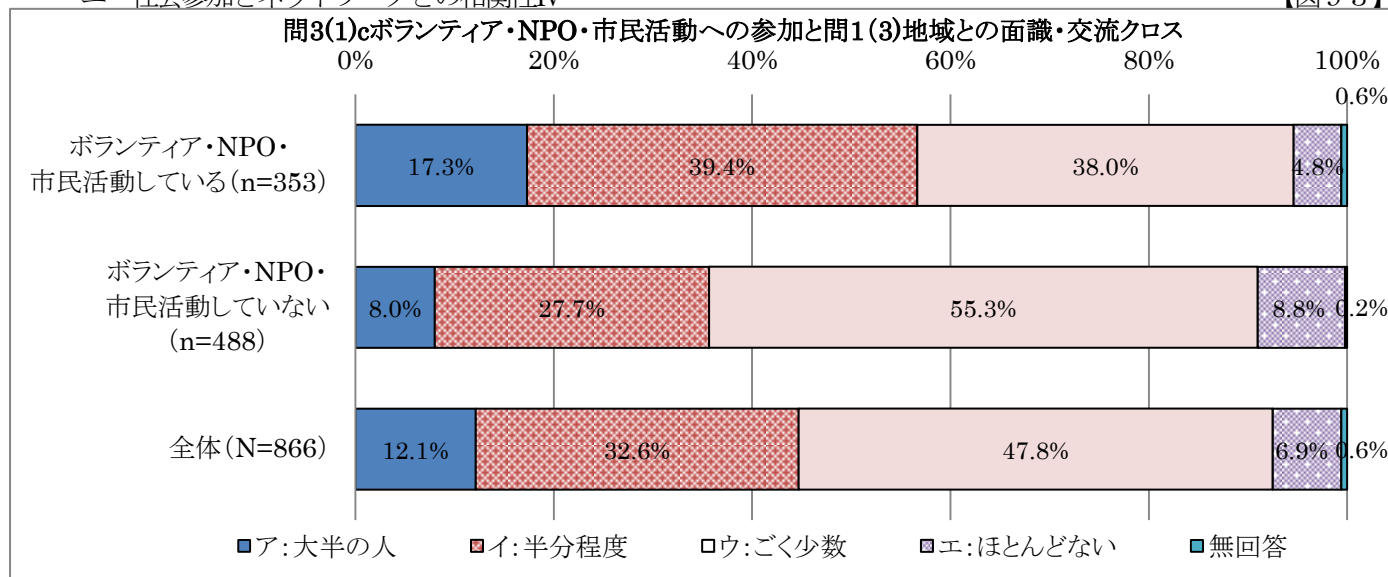
地縁的な活動への参加から見た地域の人との面識・交流についてクロス集計した結果である。

地域の「大半の人」「半分程度」と面識・交流があると回答した割合は、「地縁的な活動をしている」と回答した人の56.6%で、地縁的な活動に参加していないと回答した人の26.0%の2倍以上である。地縁的な活動をしている人の方が、地域の多くの人との面識・交流があると回答した割合が高いことが分かる。



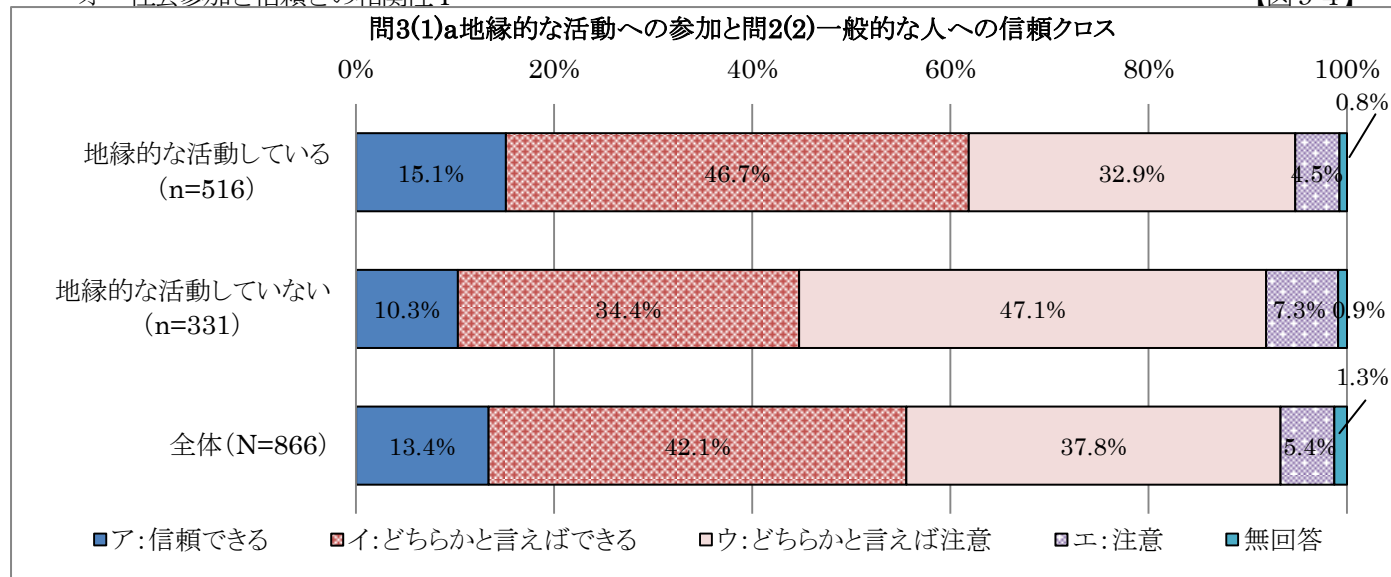
ボランティア・NPO・市民活動への参加から見た地域の人との付き合いについてクロス集計した結果である。

「生活面でも協力」の割合は、「ボランティア・NPO・市民活動している」と回答した人の24.6%で、ボランティア・NPO・市民活動に参加していないと回答した人の12.5%より12.1ポイント上回る。「ボランティア・NPO・市民活動している」人の方が、「生活面でも協力」「日常的に立ち話」など地域の人と深い付き合いをしている割合は高くなる傾向が見られる。



ボランティア・NPO・市民活動への参加から見た地域の人との面識・交流についてクロス集計した結果である。

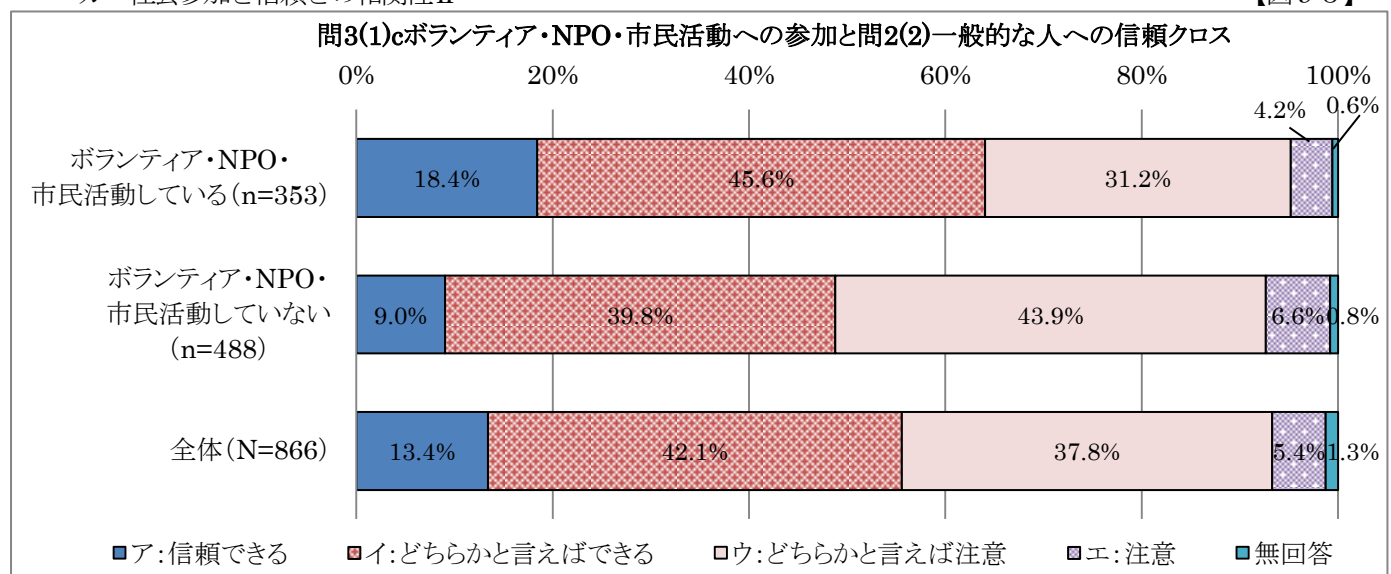
地域の「大半の人」「半分程度」と面識・交流があると回答した割合は、「ボランティア・NPO・市民活動している」と回答した人の56.7%で、「ボランティア・NPO・市民活動していない」と回答した人の35.7%より21.0ポイント上回る。ボランティア・NPO・市民活動をしている人の方が、地域の多くの人との面識・交流があると回答した割合が高くなる傾向が見られる。



地縁的な活動への参加から見た一般的な人への信頼についてクロス集計した結果である。

一般的に人は「信頼できる」と回答した割合は、地縁的な活動に参加していると回答した人の15.1%で、地縁的な活動に参加していないと回答した人の10.3%より、4.8ポイント上回っている。

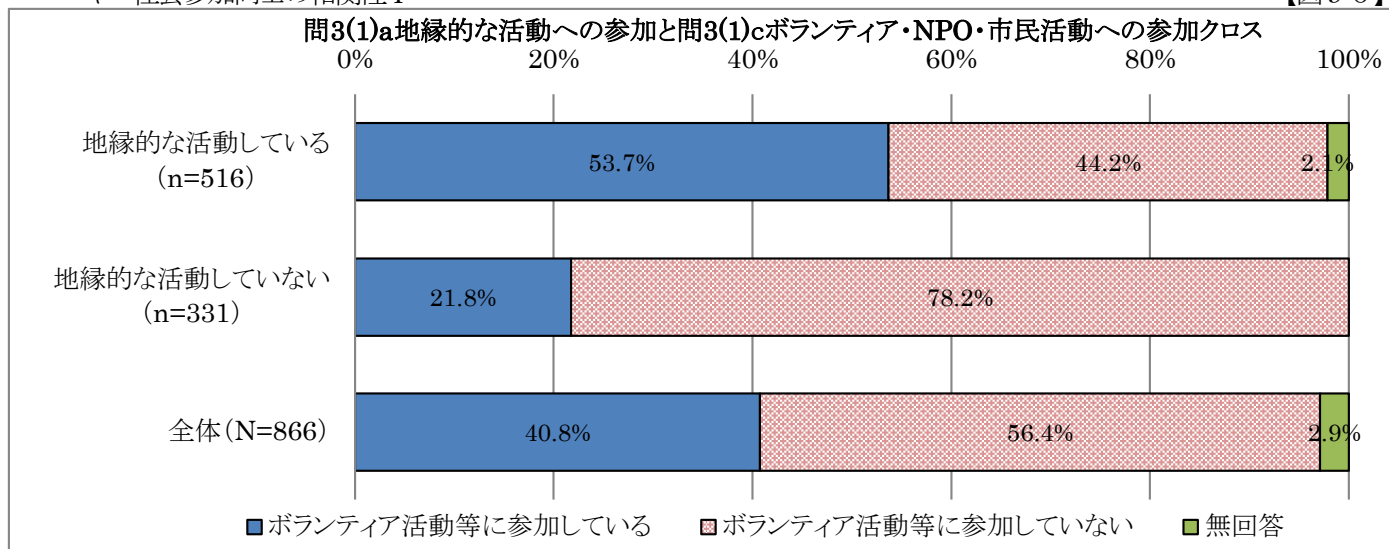
一般的に人は「注意」するに越したことはないという割合は、地縁的な活動に参加していると回答した人では4.5%、地縁的な活動に参加していないと回答した人では7.3%である。地縁的な活動をしていない人の方が、一般的に人は「注意」するに越したことはないという割合が若干高い。



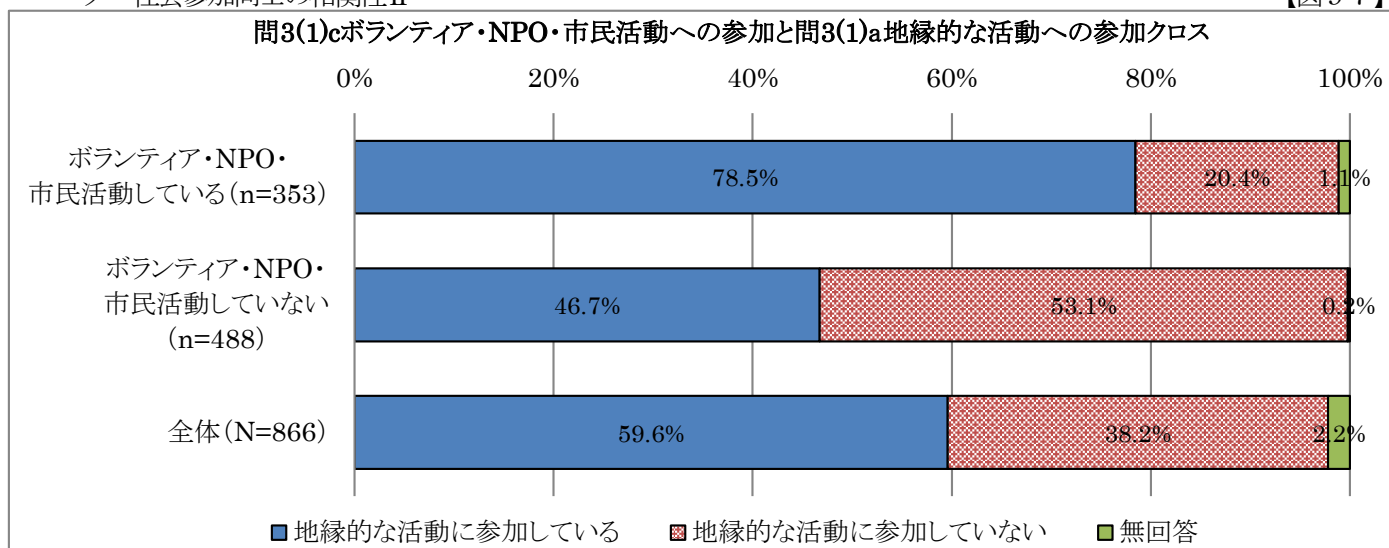
ボランティア・NPO・市民活動への参加から見た一般的な人への信頼についてクロス集計した結果である。

一般的に人は「信頼できる」と回答した割合は、ボランティア・NPO・市民活動に参加していると回答した人が18.4%で、ボランティア・NPO・市民活動に参加していないと回答した人では9.0%であった。

「注意」するに越したことはないという割合は、ボランティア・NPO・市民活動に参加していると回答した人では4.2%、ボランティア・NPO・市民活動に参加していないと回答した人では6.6%である。ボランティア・NPO・市民活動に参加していない人の方が、「注意」するに越したことはないという割合が若干高い。



地縁的な活動をしていると回答した人で、ボランティア・NPO・市民活動に参加していると回答した人の割合は53.7%で、地縁的な活動に参加していないと回答した人の21.8%より31.9ポイント高い。



地縁的な活動に参加していると回答した人の割合は、ボランティア・NPO・市民活動に参加している人の78.5%で、ボランティア・NPO・市民活動に参加していない人の46.7%よりも31.8ポイント高い。

【図9 6】と【図9 7】から、ボランティア・NPO・市民活動に参加していると回答した人で地縁的な活動に参加していると回答した割合は78.5%で、地縁的な活動に参加していると回答した人でボランティア・NPO・市民活動に参加は53.7%であることから、ボランティア・NPO・市民活動に参加している人は地縁的な活動にも参加している割合が高いが、地縁的な活動をしている人で、ボランティア・NPO・市民活動に参加していない人も多いということが想定できる。

5 ソーシャル・キャピタルの醸成に関わるもの（まとめ）

（1）年代（年齢）との相関性

① ネットワーク（地域の人との付き合い）

年代が高くなるにつれて、地域の人と深い付き合いをしている人の割合が高くなる傾向が見られる。

② ネットワーク（地域の人との面識・交流）

年代が高くなるにつれて、地域の人との面識・交流がある人の割合が高くなる傾向が見られる。

③ 社会参加（地縁的な活動への参加）

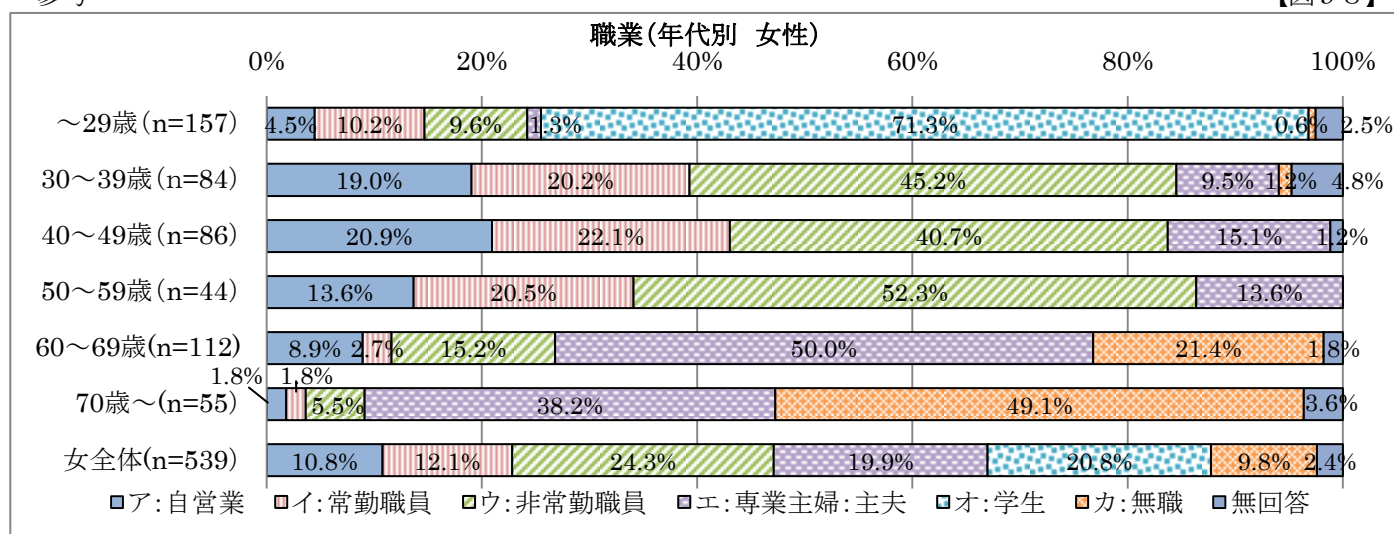
年代が高くなるにつれて、地縁的な活動に参加している人の割合が高くなる傾向が見られる。

④ 社会参加（グループ・サークル活動）

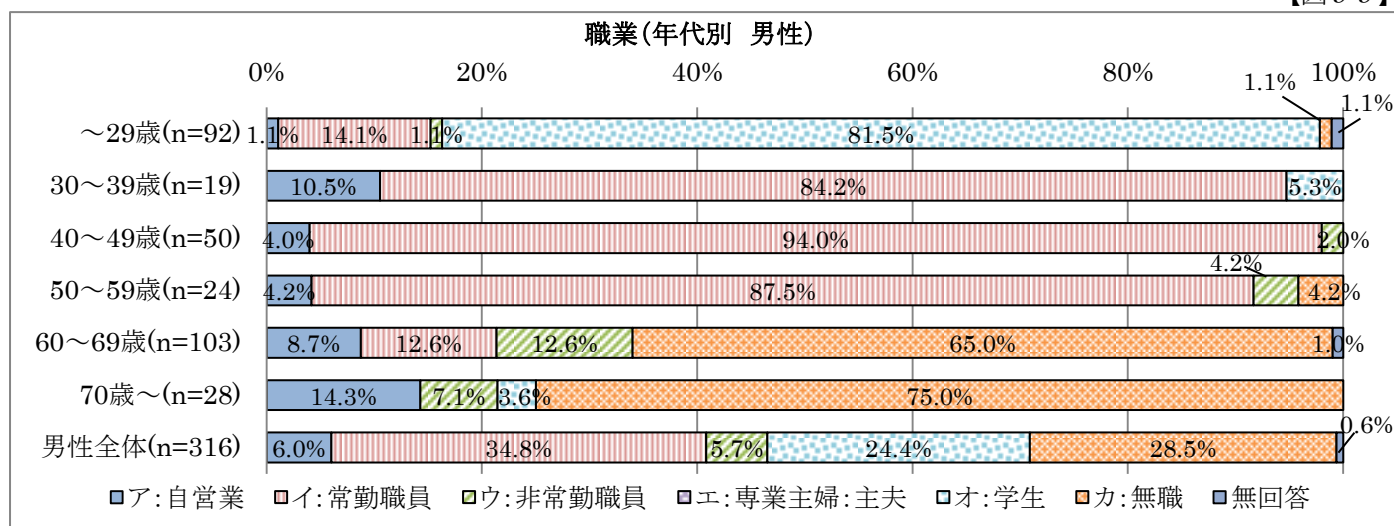
年齢が高くなるにつれて、グループ・サークル活動に参加している人の割合が高くなる傾向が見られる。

参考

【図98】



【図99】



29歳以下は、学生と回答した人が占める割合が高い。年代が高い人（60～69歳、70歳～）は、女性では専業主婦、無職、男性では無職と回答した人の割合が高い。年代（年齢）における傾向の特徴として、これらの影響があることも想定できる。

(2) 居住年数との相関性

① ネットワーク（地域の人との付き合い）

居住年数が長くなるにつれて、地域の人と深い付き合いをしている人の割合が高くなる傾向が見られる。

② ネットワーク（地域の人との面識・交流）

居住年数が長くなるにつれて、地域の人との面識・交流がある人の割合が高くなる傾向が見られる。

③ 社会参加（地縁的な活動への参加）

居住年数が長くなるにつれて、地縁的な活動に参加している人の割合が高くなる傾向が見られる。

(3) 同居家族との相関性

① 配偶者との同居

ア ネットワーク（地域の人との付き合い）

配偶者と同居している人には、地域の人と深い付き合いをしている人の割合が高くなる傾向が見られる。特に男性に見られる。

イ ネットワーク（地域の人との面識・交流）

配偶者と同居している人には、地域の人との面識・交流がある人の割合が高くなる傾向が見られる。特に女性に見られる。

ウ 信頼（一般的な人への信頼）

配偶者と同居している人には、一般的に人は信頼できると思う人の割合が高くなる傾向が見られる。

エ 社会参加（地縁的な活動への参加）

配偶者と同居している人には、地縁的な活動に参加している割合が高くなる傾向が見られる。特に男性に見られる。

② 子どもとの同居

ア ネットワーク（地域の人との付き合い）

子どもと同居している人には、地域の人と深い付き合いをしている人の割合が高くなる傾向が見られる。

イ ネットワーク（地域の人との面識・交流）

子どもと同居している人には、地域の人との面識・交流がある人の割合が高くなる傾向が見られる。

ウ 信頼（一般的な人への信頼）

子どもと同居している人には、一般的に人は信頼できると思う人の割合が高くなる傾向が見られる。

エ 社会参加（地縁的な活動への参加）

子どもと同居している人には、地縁的な活動に参加している割合が高くなる傾向が見られる。特に女性に見られる。

③ 自分の親との同居

ア ネットワーク（地域の人との付き合い）

自分の親と同居している人には、地域の人と深い付き合いがほとんどない人の割合が高くなる傾向が見られる。

イ 信頼（一般的な人への信頼）

自分の親と同居している人には、一般的に人は注意するに越したことはないと思う人の割合が高くなる傾向が見られる。

ウ 社会参加（地縁的な活動への参加）

自分の親と同居している人には、地縁的な活動に参加していない割合が高くなる傾向が見られる。

④ その他

社会参加（ボランティア・NPO・市民活動への参加）には同居家族の影響は少ない。

【参考】

地縁的な活動と同居家族の相関性、特に子供との同居の相関性については、30～39歳、40～49歳、50～59歳の女性の参加している（1：週3回以上～5：年数回程度の合計）割合が比較的高いことからもうかがえる。これは、この年代は子どもとの同居の割合が高い年代であるからと想定できる。（【図100】【図102】参照）

問3(5)の記述にも「義務教育終了とともに（地域活動への）参加が少なくなる。（40代女性）」、「子育てが終わると活動が少なくなる。（40代女性）」、「子どもたちが小中学校を修了してしまうと地域の人とのふれあいがぐっと減ってしまい、さび

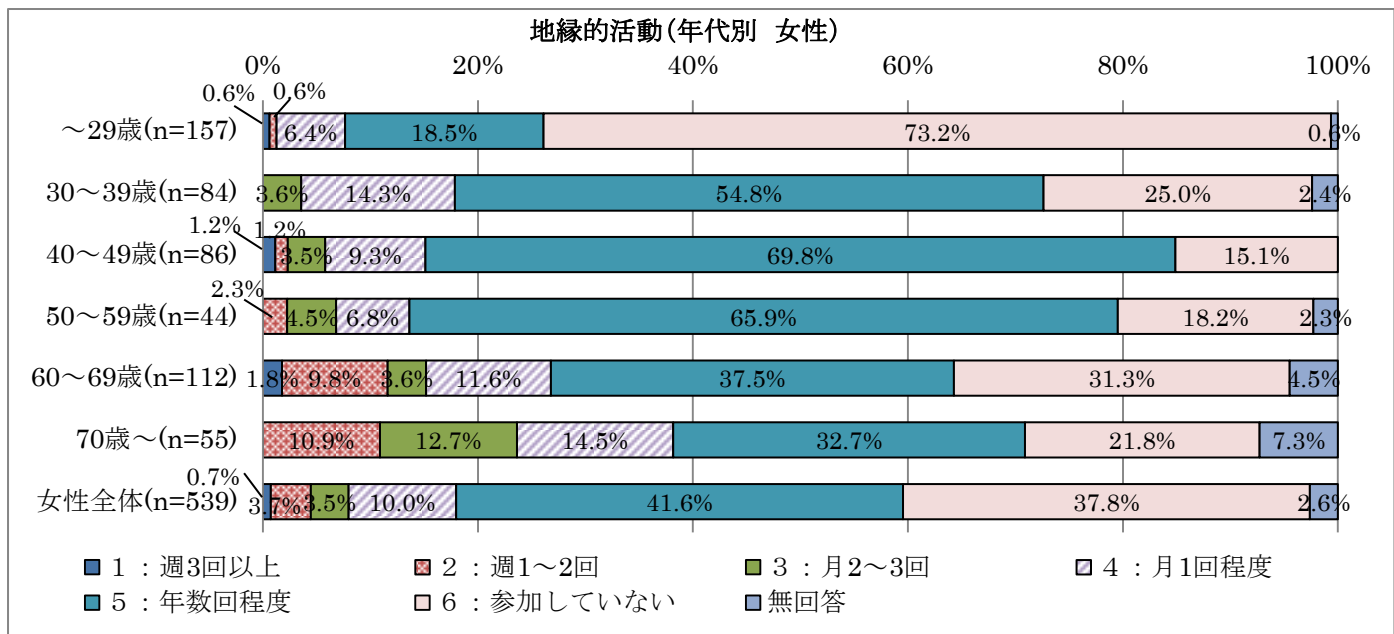
しい。(50代女性)」等コメントがあることからそれがうかがえる。よって、女性のこの世代における地縁的な活動は、主に子ども会育成会活動等の子どもに関わるものであることが想定できる。

配偶者との同居についてであるが、男性の地縁的な活動への参加状況との相関性が現れている。これについては、60～69歳、70歳以上の男性の参加している（1：週3回以上～5：年数回程度の合計）割合が比較的高く、この年代は配偶者との同居の割合が高いことによるものと思われる。（【図101】【図103】参照）

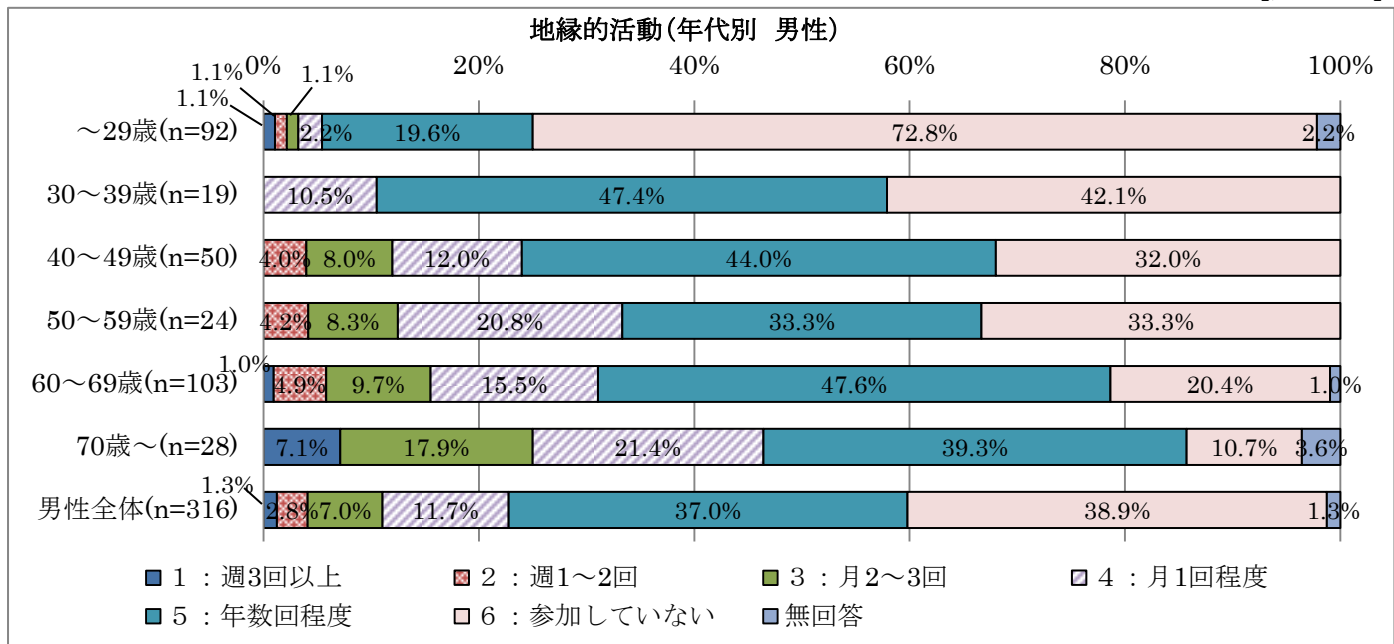
ただし、男女別の地縁的な活動への参加状況を比較してみると、男女共に子育てや子どもに関わる40～49歳、50～59歳では女性の活動が優位で、男性の活動が活発になるのは60歳以降であることから、配偶者との相関性によるものというよりも、定年退職等で時間が取れるようになったこと、さらに親との同居の割合が大きく低下していることから、世代交代があったであろうことの影響が強いものと思われる。

また、ここには子育ては女性、仕事は男性が中心という男女共同参画上の課題も見え隠れしている。

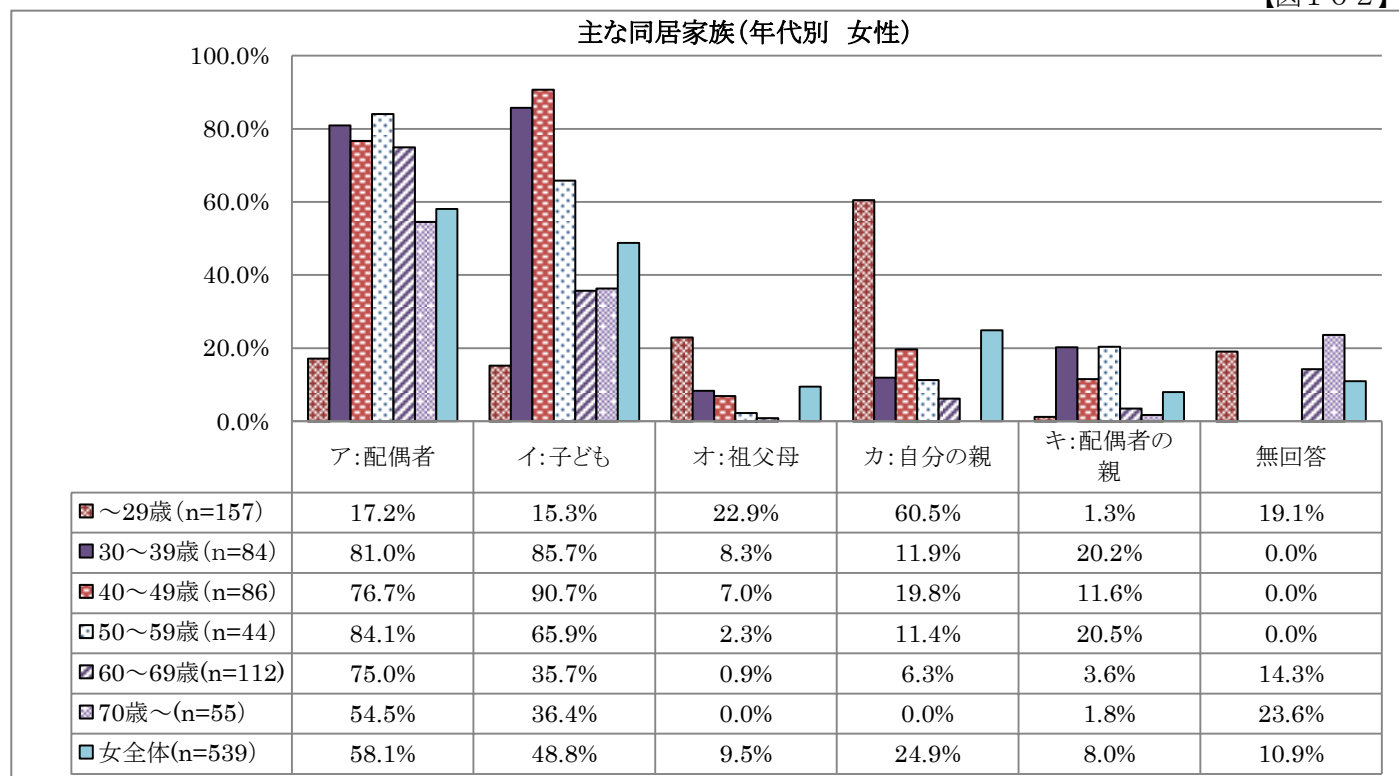
【図100】



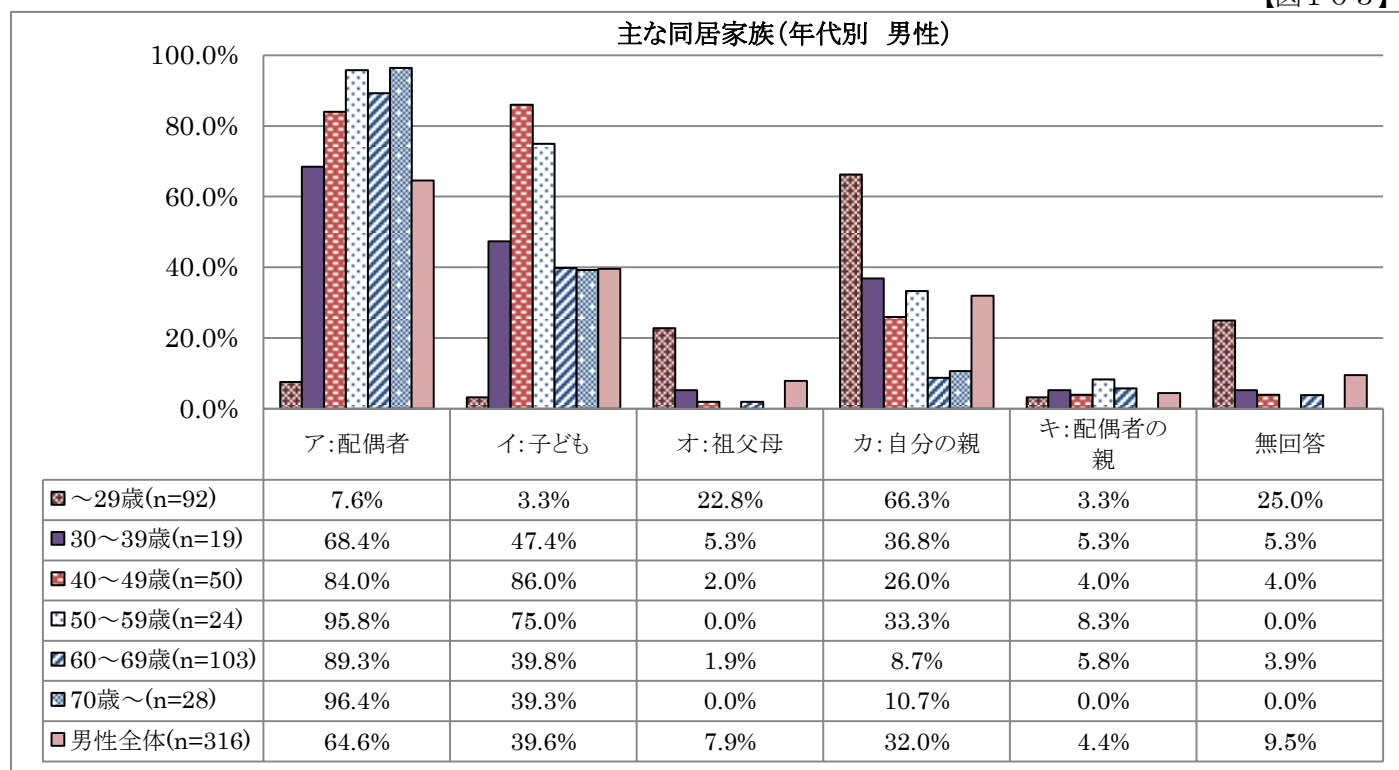
【図101】



【図102】



【図103】



(4) 要素同士の相関性

① ネットワーク同士の相関から

地域の人との面識・交流がある人ほど、地域の人と深く付き合っている人の割合が高くなる傾向が見られる。また、地域の多くの人との面識・交流がある人は、地域の人と深く付き合っている人の割合が高いが、地域の人と深く付き合っているから、地域の多くの人との面識・交流があるとは限らない。

② ネットワークと信頼との相関から

地域の人との面識・交流がある人、地域の人と深く付き合っている人ほど、一般的に人は信頼できると思う人の割合が高くなる傾向が見られる。また、地域の人との付き合いが、面識・交流よりもやや強く影響すると考えられ、信頼がネットワークを生むというよりも、ネットワークの影響から信頼が生まれると思われることから、信頼が生まれるには、(地域の) 人との付き合いの影響が強いことがうかがえる。

③ ネットワークと社会参加との相関から

地域の人と深く付き合っている人、地域の人と面識・交流がある人ほど、地縁的な活動、ボランティア・NPO・市民活動に参加している割合が高くなる傾向が見られる。また、どちらかと言えば、地域の人との付き合いの方が、地域の人との面識・交流よりも活動への参加との相関性がうかがえる。

④ 信頼と社会参加との相関から

地縁的な活動、ボランティア・NPO・市民活動に参加している人の方が、一般的に人は信頼できると思う人の割合が高くなる傾向が見られる。

⑤ 社会参加同士の相関から

地縁的な活動への参加とボランティア・NPO・市民活動への参加には相関性が見られ、いずれの活動にも関わる人が多い傾向が見られる。どちらかと言えば、ボランティア・NPO・市民活動に参加していて、地縁的な活動にも参加している人の方が、地縁的な活動をしていて、ボランティア・NPO・市民活動に参加している人の割合よりも高くなる傾向が見られる。

⑥ まとめ

全体として、要素同士には相関性がある。特にネットワークの地域の人との付き合いが、信頼、社会参加に影響がある様子がうかがえる。